

山梨市文化財調査報告書 第40集

小 揚 遺 跡

—主要地方道甲府山梨線バイパス工事に伴う発掘調査報告書—

2021.3

山梨県峡東建設事務所
山梨市教育委員会

序

本書は主要地方道甲府山梨線バイパス工事に伴って行われた小揚遺跡発掘調査の報告書です。

今回の調査では、複数の縄文時代の竪穴遺構を確認することができました。調査地を含む周辺の斜面地に、縄文時代中期後半から後期初頭の集落が展開していることが推定され、八幡地域における古代の生活の痕跡を発見することができました。

最後になりますが、山梨県峡東建設事務所及び調査支援をしていただいた昭和測量株式会社の皆様をはじめ関係各位に心から感謝申し上げます、序といたします。

令和3年3月

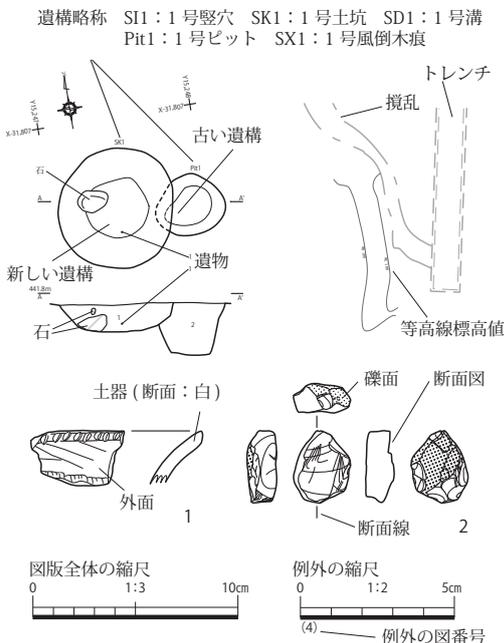
山梨市教育委員会
教育長 澤田 隆雄

例言

1. 本報告書は、山梨県山梨市堀内783外に所在する小揚遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は防災・安全社会資本整備交付金事業主要地方道甲府山梨線バイパス工事に伴う発掘調査であり、山梨市教育委員会が実施し、昭和測量株式会社が調査支援をした。
3. 調査は山梨市教育委員会生涯学習課の駒田真人が担当し、昭和測量株式会社の高野高潔、藤巻浩太郎が現地調査及び整理作業の支援を行った。
4. 本調査に関わる費用は山梨県峡東建設事務所が負担した。
5. 発掘調査は令和2年5月11日～令和2年7月27日にかけて実施した。整理・報告書刊行業務は令和2年9月～令和3年3月まで実施した。調査面積は300㎡である。
6. 報告書の執筆は、第1章駒田・高野、第2章藤巻、第3章高野・藤巻、第4章高野・藤巻、第5章第1節高野、第2節藤巻が担当した。全体の編集は高野・藤巻、遺物写真撮影は高野が行った。
7. 挿図使用地図は、第1図：大日本帝国陸地測量部発行の1/20,000地形図甲府近傍一号「七里村」(明治43年7月鉄道補測発行)、二号「勝沼」(明治43年7月鉄道補測発行)、四号「八幡村」(明治43年7月鉄道補測発行)、五号「石和」(明治43年4月鉄道補測発行)、第2図：国土地理院発行(平成14年6月発行、令和元年5月発行)の数値地図25,000(地図画像)「甲府」所収「塩山」である。
8. 遺構平面図のXY座標値は平面直角座標系(世界測地系)第Ⅷ系の値である。方位記号は方眼北を示している。遺構断面図の数値は標高である。座標値、標高の単位はメートルである。
9. 本調査における図面・写真・遺物はすべて山梨市教育委員会が保管している。
10. 発掘調査にて御協力を賜った方々に感謝を表したい。中山誠二、山梨県峡東建設事務所(順不同、敬称略)

凡例

1. 挿図縮尺は図中に記載した。写真図版の縮尺は任意である。
2. 立面図・土層断面図の水糸レベル数値は海拔高を示す。
3. 土層断面図、遺物観察表中の色調は『新版標準土色帖1990年版』(農林水産省農林水産技術会議事務局監修)に基づいた。
4. 遺構・遺物実測図の表現については下図の通りである。



目次

序	
例言・凡例	
第1章 経過	
第1節 調査に至る経過	1
第2節 調査の目的と課題	1
第3節 調査の経過	1
第2章 遺跡の立地と歴史的環境	
第1節 地理的環境	2
第2節 歴史的環境	2
第3章 調査の方法	
第1節 調査の方法	6
第2節 基本層序	6
第4章 調査の成果	
第1節 調査の概要	8
第2節 遺構・遺物	8
第5章 まとめ	
第1節 遺構と時期	31
第2節 土偶	32
写真図版	

挿図目次

第1図 調査地の位置	3
第2図 周辺の遺跡分布	4
第3図 基本層序	6
第4図 調査区全体図	7
第5図 1号竪穴(1) 遺構	11
第6図 1号竪穴(2) 遺構	12
第7図 1号竪穴(3)・土坑 遺構	13
第8図 2号竪穴 遺構	14
第9図 3号竪穴 遺構	15
第10図 4号竪穴 遺構	16
第11図 1号竪穴(1) 遺物(土器)	17
第12図 1号竪穴(2) 遺物(土器)	18
第13図 2号竪穴(1) 遺物(土器)	19
第14図 2号竪穴(2) 遺物(土器)	20
第15図 3号竪穴(1) 遺物(土器)	21
第16図 3号竪穴(2) 遺物(土器)	22
第17図 4号竪穴(1) 遺物(土器)	23
第18図 4号竪穴(2) 遺物(土器)	24
第19図 1～4号竪穴(1) 遺物(石器)	25
第20図 1～4号竪穴(2) 遺物(石器)	26
第21図 1～4号竪穴(3) 遺物(石器)	27

表目次

表1 周辺の遺跡一覧表	5
表2 遺物観察表	28

写真図版目次

調査区・1～3号竪穴	図版1	3号竪穴 土器	図版5
4号竪・1号土坑	図版2	4号竪穴 土器	図版6
1号竪穴 土器	図版3	1～4号竪穴 石器	図版7
2号竪穴 土器	図版4		

第1章 経過

第1節 調査に至る経過

山梨県峡東建設事務所により主要地方道甲府山梨線バイパス工事について平成29年に協議があり、計画範囲内に小揚遺跡が存在していることから平成29年6月8日に埋蔵文化財包蔵地発掘の通知が山梨県峡東建設事務所より山梨市教育委員会に提出され、平成30年12月17日から21日にかけて山梨市教育委員会による試掘調査が行われた。

調査の結果、工事範囲内の一部において遺構・遺物が確認され、今回の発掘対象地である300㎡について遺跡の保護について山梨県峡東建設事務所と山梨市教育委員会で協議を行った結果、記録保存調査を行うこととなった。山梨市教育委員会で調査を行い、昭和測量株式会社が調査支援を行った。

第2節 調査の目的と課題

今回の調査は山梨市八幡地区を東西に横断する道路建設に伴い遺構・遺物の記録保存を行うことを目的とする。調査地は標高460mを測る高地であり、傾斜度が約6度の扇状地である。北側は傾斜度約15度の山地がせまっている。西側には八幡条里が標高約450mから370mに広がる傾斜度約2度の谷底平野の台地上に認められる。調査地はこの谷底平野の谷頭部よりも更に上に位置する。調査地の現況は果樹畑、それ以前は水田であり、斜面地に石積みで土止めを施した比較的狭小な平坦面が段々に造成されている。今回の調査では、このような標高の高い傾斜地の造成面でいかに遺構を検出することができるかが課題であった。

第3節 調査の経過

小揚遺跡の調査は山梨市教育委員会が主体となって実施し、生涯学習課の駒田真人が発掘を担当した。山梨市から委託を受けて昭和測量株式会社が調査支援を行った。

山梨市教育委員会：調査担当者 駒田真人。発掘補助員 芦沢はつ子、岡利恵、小澤志郎、藤原今朝男、若月あい子。昭和測量株式会社：支援調査員 高野高潔、藤巻浩太郎。助言・指導 新津健。発掘補助員 朝倉訓、雨宮克好、土屋常子、内藤敏夫、廣瀬早希、藤原由香、三木一恵、山本修二、若林奈な。空中写真撮影 吉田泰司、野村亮太。整理補助員 浅川悠起子、今福ともみ、尾川正美、垣内律子、齊藤里美、佐野香織、広瀬ありさ、三木一恵。

発掘調査は令和2年5月11日に開始し、令和2年7月27日に終了した。調査面積は300㎡である。詳細は以下のとおりである。

5月11日、重機による表土除去開始。13日、環境整備、グリッド1A～8C設定、人力精査開始。14日、仮設ハウス等設置、基準点設置。15日、6A～6Cサブトレ調査。18日、2A～3Cサブトレ精査。1A～2C遺物包含層掘削、遺構確認。20日、4A～6A、3B～6B土層確認。21日、3A～4A遺物包含層掘削。22日、2B～2C旧水田層精査。25日、3A～4A遺構確認。26日、3B～4B遺物包含層掘削。27日、5A遺物包含層掘削。28日、3B～4B遺構確認。3B旧水田層精査。29日、5B遺物包含層掘削。6月1日、5B遺構確認。2日、3C～5C遺物包含層掘削。3日、3C遺構確認。5日、4C～5C遺構確認1号竪穴精査。17日、6A遺物包含層掘削。23日、6C遺物包含層掘削。24日、6C遺構確認2号竪穴精査、7C～8C遺物包含層掘削・遺構確認。23日、7B遺物包含層掘削。26日、6A遺構確認3号竪穴精査。29日、6B遺物包含層掘削、遺構確認4号竪穴精査。7月7日、7B遺構確認。7月22日ドローン空中写真撮影、仮設ハウス等撤去。27日現場作業終了。

整理作業は令和2年10月1日に開始し、令和3年2月26日に終了した。出土遺物の水洗、注記、接合、実測遺物の選定、実測、トレース、写真撮影、図版作成、編集・版下データ作成を行い、報告書を刊行した。

第2章 遺跡の立地と歴史的環境

第1節 地理的環境

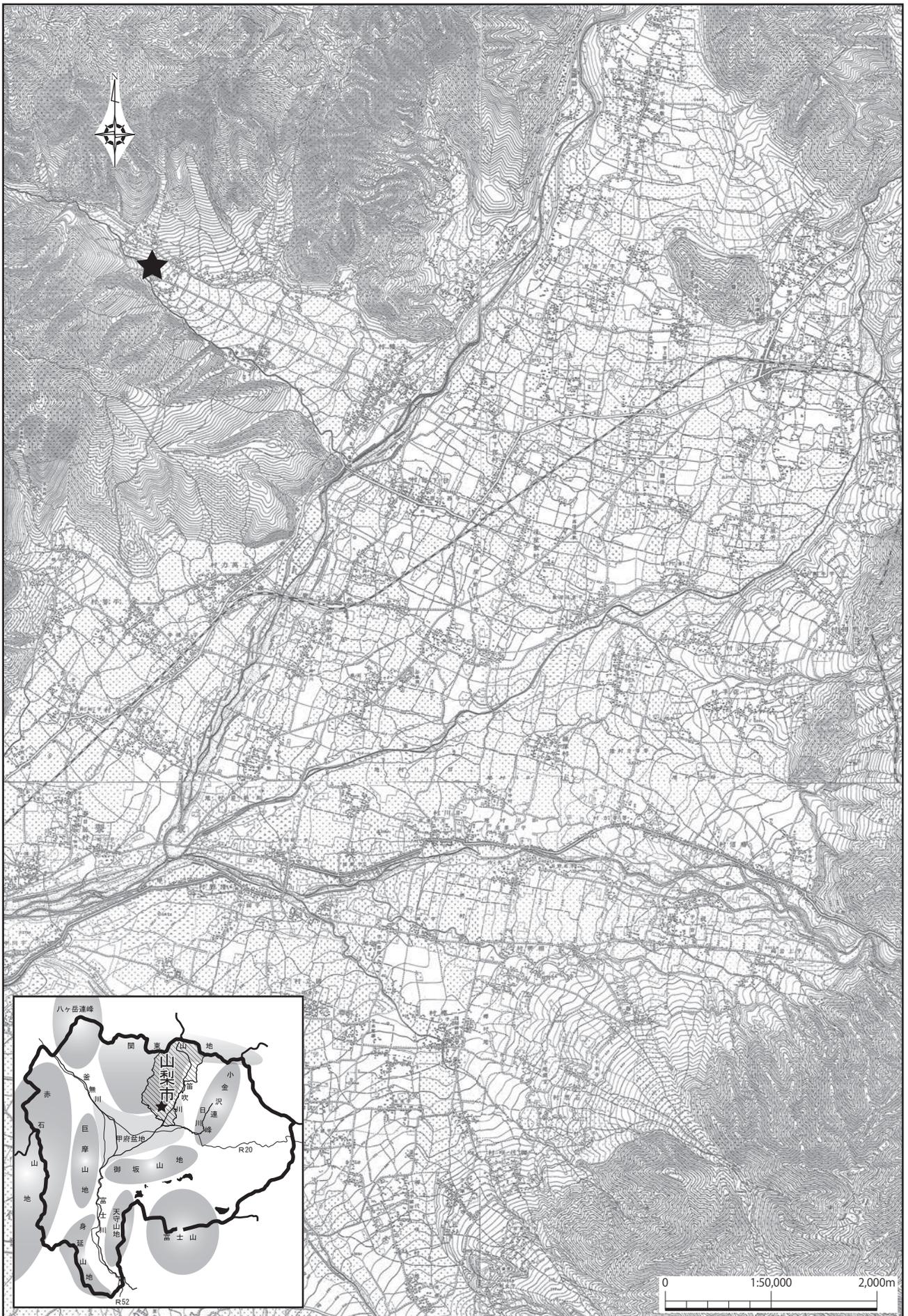
山梨県山梨市は甲府盆地の北東部から県境の関東山地までを占めている。北側には2,000 m級の秩父山地が広がり埼玉県・長野県と接している。小揚遺跡が所在する堀内地区は山梨市の南西部にあり、兄川・弟川の2河川が形成した東向き、約2°南偏した扇状地上に位置している。兄川・弟川は笛吹川の支流で、兄川は秩父山地の支尾根の一つ、帯那山付近に源流をもつ河川である。扇状地は南縁を兄川、北縁を弟川が流下したもので東西に約3 km、南北に約1.5 kmの範囲を持つ。小揚遺跡はこの扇状地の南西部、兄川よりに立地し標高は約465 mである。かつては水田が盛んに作られ、近年ではブドウ・モモなどの果樹地帯として土地利用が行われている。調査前の現況はブドウの栽培を主とした果樹園であった。また兄川上流の山梨市水口、山口地区からは太良峠を越え甲府市上積翠寺町を経て武田氏館跡へと下ることができ、かつては甲府市方面とを結ぶ主要なルートの一つであったと考えられる。近年では西関東連絡道路の開通により甲府市からのアクセスが改善されている（第1図）。

第2節 歴史的環境

山梨市域に存在する遺跡は318を数えており（令和2年現在）、中でも奈良・平安時代の遺跡が多数を占めている。小揚遺跡（1）の所在する堀内地区周辺には縄文時代及び平安時代の遺跡が点在している。本遺跡の南東に位置する兄川河床遺跡（2）では、ナウマンゾウの化石骨や臼歯、シカ属角片が出土している。縄文時代には本遺跡周辺では大工北遺跡（3）で縄文土器が出土しているほか植田遺跡（11）からは集石土坑などが確認されている。山梨市域を見ると、柿木田遺跡（38）や八王子遺跡（48）で集落跡が確認されている。高畑遺跡（34）でも中期の竪穴住居跡が重複を含めて10軒検出されており、立石遺跡（35）では中期後半の住居跡や縄文土器が多数出土している。弥生時代になると遺跡数が減少し、延命寺遺跡（56）から弥生時代末の遺物、堀ノ内遺跡（58）から遺構・遺物が確認される。古墳時代では岩下古墳群や山根古墳群など山梨市南部で古墳が確認されるほか、足原田遺跡（59）では古墳時代前期の土師器が大量に出土されている。平安時代から山梨市内で遺跡数が増加し、本調査地付近では上コブケ遺跡（6）や膳棚遺跡（16）で遺構が確認されるほか、荒神山窯跡（24）では土師器焼成遺構が確認される。中世以降には国指定重要文化財である本殿、拝殿等をもつ窪八幡神社社家坊中群（26）や県指定有形文化財である五輪塔群を持つ安田義定館跡（112・113）などがあり、本調査地周辺は各時代を通して古代甲斐国の主要な地域の一つであったことがわかる（第2図）。

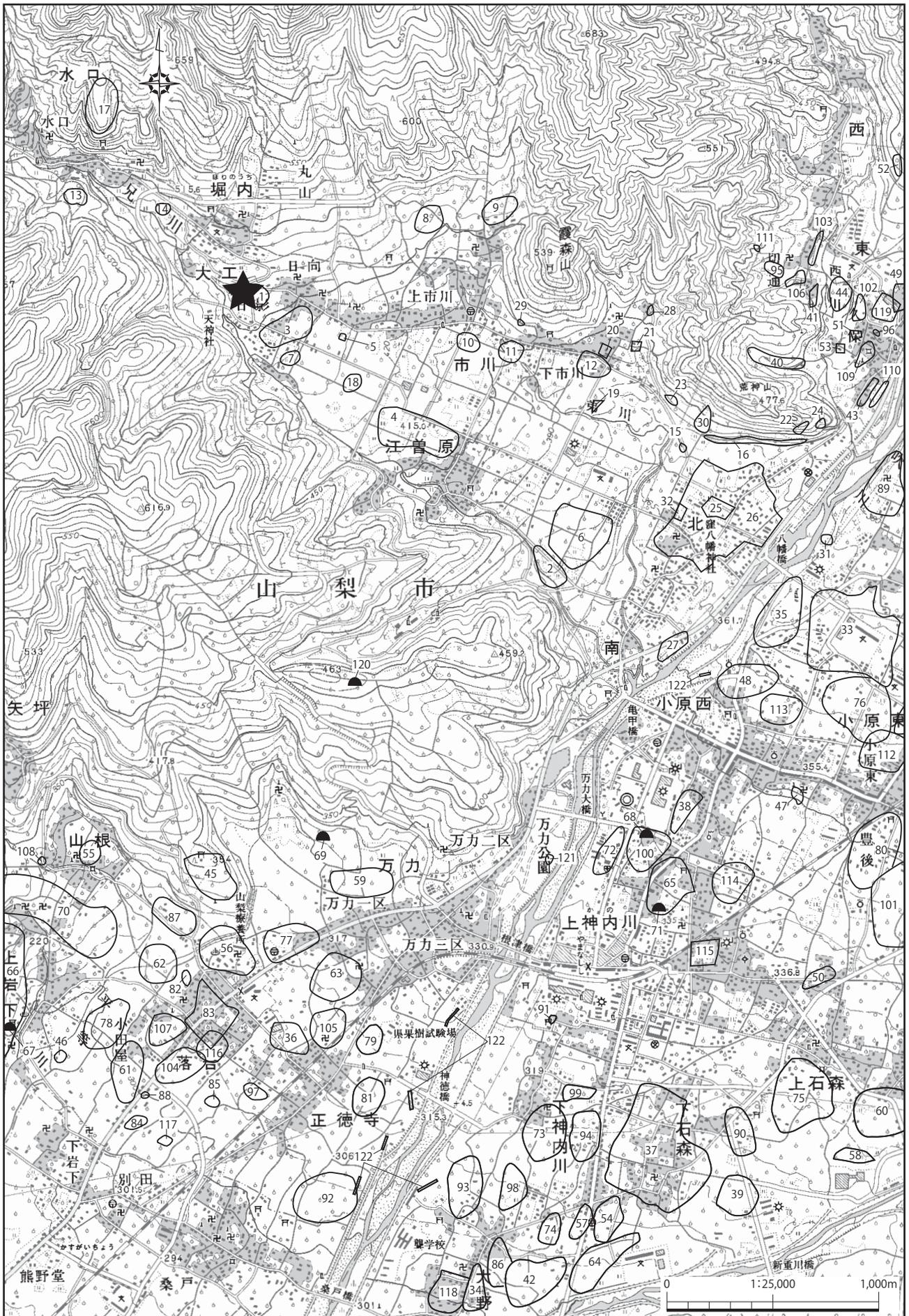
参考文献

- 山梨県 1998 『山梨県史 資料編1 原始・古代1 考古（遺跡）』
- 山梨県 2004 『山梨県史 通史編1 原始・古代』
- 山梨市 2004 『山梨市史 史料編 近世』
- 山梨市 2005 『山梨市史 資料編 考古・古代・中世』
- 山梨市 2005 『山梨市史 文化財・社寺編』
- 山梨市 2007 『山梨市史 通史編 上巻』



★調査地（小揚遺跡）

第1図 調査地の位置



★調査地（小揚遺跡）

第2図 周辺の遺跡分布

表1 周辺の遺跡一覧表

No.	遺跡名	種別	時代	所在地	No.	遺跡名	種別	時代	所在地
1	小揚遺跡	散布地	縄文/平安	堀内字小揚	62	千原田遺跡	集落跡	古墳/平安	落合字千原田
2	兄川河床遺跡	その他	旧石器	南字上兄川(兄川河床)	63	間之田西遺跡	散布地	古墳/平安	正徳寺字間之田
3	大工北遺跡	散布地	縄文/古墳/平安	大工字日影	64	雲林遺跡	散布地	古墳/平安	下石森字雲林
4	江首原遺跡	集落跡	縄文/古墳/平安	山梨市江首原字片瀬	65	塚越遺跡	散布地	古墳/中世	上神内川字塚越
5	堰間遺跡	集落跡	縄文/平安/中世	堀内字堰間	66	岩下古墳群	古墳群	古墳	上岩下
6	上コブケ遺跡	集落跡	縄文/平安	北字上コブケ	67	天神塚古墳	古墳	古墳	上岩下字上天神山
7	大工南遺跡	散布地	縄文	大工字井ノ久保前	68	平塚古墳	古墳	古墳	上神内川字平塚
8	泉林遺跡	散布地	縄文	市川字泉林	69	長源寺前古墳	古墳	古墳	上万力字蟹沢
9	市川北遺跡	散布地	縄文	市川字平山	70	山根古墳群	古墳群	古墳	山根
10	市川西遺跡	散布地	縄文	市川字植田	71	稲荷塚古墳	古墳	古墳	上神内川字塚越
11	植田遺跡	集落跡	縄文	市川字植田	72	日下部病院前遺跡	散布地	古墳	上神内川字水上
12	市川東遺跡	散布地	縄文	市川字神明前	73	杉ノ木遺跡	集落跡	古墳	下神内川字杉木
13	馳平遺跡	散布地	縄文	水口字馳平	74	宗高西遺跡	散布地	古墳	下石森字宗高
14	形山遺跡	散布地	縄文/中世	水口字形山	75	上黒木遺跡	散布地	奈良/平安/中世	上石森字上黒木
15	廻り田遺跡	集落跡	古墳	北字廻り田	76	大塚遺跡	散布地	奈良/平安	小原東字大塚
16	膳棚遺跡	集落跡	平安	北字中膳棚ほか	77	原ノ前遺跡	散布地	奈良	万力字原ノ前
17	堂平遺跡	散布地	平安	水口字堂平	78	小武家遺跡	集落跡	平安/中世	上岩下字小武家
18	芦原遺跡	散布地	平安	大工字芦原	79	三宮寺遺跡	散布地	平安/中世	正徳寺字三宮寺
19	大塚遺跡	散布地	平安	市川字大塚	80	浅間遺跡	散布地	平安/中世	三ヶ所字浅間
20	神明前遺跡	散布地	平安	市川字神明前	81	九ツ塚遺跡	散布地	平安/中世	正徳寺字九ツ塚
21	於北南遺跡	散布地	平安	市川字於北	82	三牧地遺跡	散布地	平安/中世	上岩下字三牧地
22	中下西遺跡	散布地	平安	東字中下	83	屋敷遺跡	散布地	平安/中世	落合字屋敷
23	樋詰裏遺跡	散布地	平安/中世	北字樋詰裏	84	花桜遺跡	散布地	平安/中世	落合字花桜
24	荒神山窯跡	窯跡	平安/中世	東字荒神山	85	正徳寺前田遺跡	散布地	平安	正徳寺字前田
25	窪八幡神社	神社	中世	北字仲町	86	天神前北遺跡	散布地	平安	大野字天神前
26	窪八幡神社社家坊中群	社寺跡	中世/近世	北	87	地藏久保遺跡	散布地	平安	落合字地藏久保
27	窪八幡神社旧社地跡	社寺跡	平安/中世	南	88	落合市道遺跡	散布地	平安	落合字市道
28	於北北遺跡	その他	中世/近世	市川字於北	89	天神原南遺跡	散布地	平安	七日市場字天神原
29	神明前遺跡	社寺跡	中世/近世	市川字神明前	90	宮ノ前遺跡	散布地	平安	下石森字宮ノ前
30	西片山遺跡	その他の墓	中世/近世	北字西片山	91	宮ノ上遺跡	散布地	平安	下神内川字宮ノ上
31	権現窪経塚	経塚	中世/近世	七日市場権現窪	92	五鉢尊遺跡	散布地	平安	正徳寺字五鉢尊
32	清水陣屋跡	陣屋跡	近世	北字デウノコシ	93	榎木田遺跡	散布地	平安	大野字榎木田
33	日下部遺跡	集落跡	縄文/弥生/奈良/平安/中世	小原東字大泉庵	94	宗高北遺跡	散布地	平安	下石森字宗高
34	高畑遺跡	集落跡	縄文/古墳/平安	大野字高畑	95	切通西遺跡	散布地	平安	東字切通
35	立石遺跡	集落跡	縄文/奈良/平安	小原東字立石	96	久保西遺跡	散布地	平安	東字久保
36	天神前遺跡	散布地	縄文/平安/中世	正徳寺字天神前	97	林際遺跡	散布地	平安	正徳寺字林際
37	屋敷添遺跡	散布地	縄文/平安/中世	下石森字屋敷添	98	市道遺跡	散布地	平安	大野字市道
38	柿木田遺跡	集落跡	縄文/古墳	小原西字柿木田	99	前田遺跡	散布地	平安	下神内川字前田
39	上石森塚越遺跡	散布地	縄文/平安	上石森字塚越	100	平塚遺跡	散布地	平安	上神内川字平塚
40	大久保遺跡	散布地	縄文/平安	東字大久保	101	吉原遺跡	散布地	平安	三ヶ所字吉原
41	切通南遺跡	散布地	縄文/平安	東字切通	102	久保遺跡	散布地	平安	東字久保
42	天神前東遺跡	散布地	縄文/平安	大野字天神前	103	堤下遺跡	散布地	平安	西字堤下
43	中島遺跡	散布地	縄文/平安	東字中島	104	堀之内遺跡	散布地	平安	落合字堀之内
44	籐の木道下遺跡	散布地	縄文/平安	東字籐の木道下	105	間之田東遺跡	散布地	平安	正徳寺字間之田
45	金桜遺跡	散布地	縄文/平安	落合字金桜	106	切通東遺跡	散布地	平安	東字切通
46	小金田遺跡	散布地	縄文	上岩下字小金田	107	田屋之前遺跡	散布地	平安	落合字田屋之前
47	寺の下遺跡	散布地	縄文	小原西字寺の下	108	鷹田遺跡	その他の墓	中世/近世	山根字鷹田
48	八王子遺跡	集落跡	縄文	小原東字八王子	109	東田遺跡	社寺跡	中世/近世	東字東田
49	久保田遺跡	散布地	縄文	東字久保田	110	下河原遺跡	その他	中世/近世	東字下河原
50	上手原遺跡	散布地	縄文	上石森字上手原	111	切通北遺跡	その他	中世/近世	東字切通
51	村西遺跡	散布地	縄文	東字村西	112	安田義定館跡	城館跡	中世	小原東字白山
52	萱刈遺跡	散布地	縄文	東字萱刈	113	安田義定館跡	城館跡	中世	小原西字八王子
53	丸山遺跡	散布地	縄文	東字丸山	114	松原遺跡	散布地	中世	上神内川字松原
54	宗高東遺跡	散布地	縄文	下石森字宗高	115	城伊庵屋敷跡	城館跡	中世	上神内川字幸ノ前
55	長田遺跡	散布地	縄文	山根字長田	116	落合館跡	城館跡	中世	落合字屋敷
56	延命寺遺跡	集落跡	弥生/古墳/平安	落合字延命寺	117	欠之下遺跡	散布地	中世	正徳寺字欠之下
57	宗高南遺跡	散布地	弥生/古墳	下石森字宗高	118	大野砦跡	城館跡	中世	大野字三十六
58	堀ノ内遺跡	集落跡	弥生/平安	上石森字堀ノ内	119	上野氏屋敷	城館跡	近世	東字久保
59	足原田遺跡	集落跡	古墳/平安/中世	万力字足原田	120	富士塚	富士塚	近世	上万力字藤塚
60	金山林遺跡	集落跡	古墳/平安	上石森字金山林	121	雁行堤	堤防遺跡	近世	万力字正月林
61	半座池遺跡	散布地	古墳/平安	落合字半座池	122	笛吹川堤防跡群	その他(堤防群)	近世/近現代	

第3章 調査の方法

第1節 調査の方法

調査区の形状に即して5m方眼のグリッドを設定した。北西隅(X=-31647.0m、Y=14953.0m)を起点として東西に数字、南北にアルファベットの名称を付した。軸線の回転はN-6.715°-Wである(第3図)。測量成果は世界測地系とした。

表土掘削はバックホウ0.25m³で行い、発生土は隣接する事業地内に仮置きした。表土掘削の重機運転は有限会社宮脇工業が行った。表土の掘削後、人力で精査を行い、遺物包含層掘削、および遺構の検出を行った。検出遺構は順に番号を付し、人力で遺構の掘削・記録を行った。

遺物包含層及び遺構から出土した遺物は順に番号を付して、トータルステーションを使用して位置を記録し取り上げを行った。小破片については一括出土遺物として取り上げた。

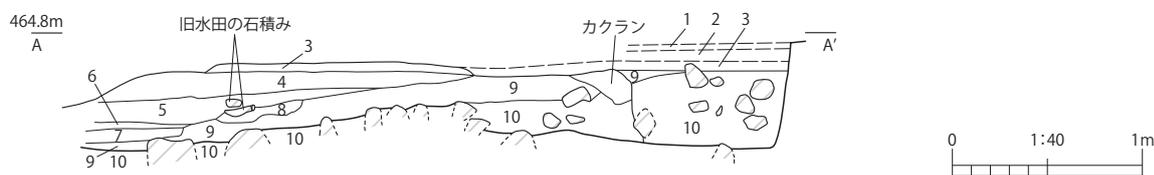
遺構平面図・セクション図・エレベーション図は、トータルステーションを使用して計測し作図した。セクション図は手書きも併用した。全体図・微細図はポール撮影やドローンによる空中撮影の写真も使用し、写真計測も併用して作図した。遺構・遺物の記録写真は一眼レフカメラで、35mmモノクロネガフィルムとデジタルカメラを併用して撮影した。

整理作業は出土遺物の水洗、注記、接合、実測遺物の選定、実測、トレース、写真撮影、図版作成、調査報告書編集、版下データ作成を行った。遺物の実測は手描き及び三次元測定機を用いて行った。トレースから調査報告書の版下データ作成までは、デザインソフト等を使用してデジタルデータで行った。遺物写真は一眼レフデジタルカメラで撮影した。

<使用システム>トータルステーション TOPCON SOKKIA SET5XS。電子平板 Panasonic TOUGHBOOK CF-19。遺構実測支援ソフト CUBIC 社「遺構くん」電子平板対応。写真計測ソフト Agisoft 社「PhotoScan Professional」。デザインソフト adobe 社「illustratorCC」。写真ソフト adobe 社「PhotoshopCC」。編集ソフト adobe 社「InDesignCC」。三次元測定機キーエンス社「3D スキャナ型三次元測定機 VL-350」。

第2節 基本層序

調査区は主に北側から南側へ向かって下る傾斜地形である。現況では調査範囲の標高463.6m～465.0mの中に、東西に細長い1段から3段の平坦な耕作面が造成されていた。基本層序は調査区グリッド2Aから2Cを通して南北に設定したトレンチ壁面で確認した(第3・4図)。



調査区南北セクション

- 1 灰黄褐色(10YR4/2)シルト 締まりややあり 粘性ややあり [表土 ブドウ耕作土]
- 2 灰黄褐色(10YR5/2)粘土 締まりあり 粘性あり 径1mm白色粒3% [(新)水田床土(灰色)]
- 3 黄褐色(10YR5/6)粘土 締まりあり 粘性あり 径1mm白色粒3% [(新)水田床土(黄色)]
- 4 灰黄褐色(10YR5/2)粘土 締まりあり 粘性あり 径1mm黄色粒1% [(旧)水田床土(灰色)]
- 5 灰褐色(7.5YR/5/2)粘土 締まりあり 粘性あり 径1mm赤色粒3% [(旧)水田床土(灰色)]
- 6 オリーブ褐色(2.5Y4/6)粘土 締まりあり 粘性あり 径1mm黄色粒5% 径1mm白色粒3% [(旧)水田床土(黄色)]
- 7 黒褐色(10YR3/2)シルト 締まりあり 粘性あり 径5mm炭化粒1% 径2mm白色粒5% [遺物包含層]
- 8 暗褐色(10YR3/3)シルト 締まりあり 粘性あり 径2mm白色粒2% [地山(石積みの影響あり)]
- 9 にぶい黄褐色(10YR5/4)砂質土 締まりあり 粘性弱い 径10cm亜角礫3% 径2mm白色粒30% [地山(礫少ない)]
- 10 黄褐色(10YR5/6)砂質土 締まりあり 粘性弱い 径10cm亜角礫20% 径20cm亜角礫10% 径2mm白色粒10% [地山(巨礫多い)礫層]

第3図 基本層序



第4図 調査区全体図

第4章 調査の成果

第1節 調査の概要（第1図、写真図版1）

調査区は標高が463.6m～465.0mの地点で、傾斜度が約6度の斜面地である。3段の平坦面が造成され、東西に細長い段々のブドウ畑である。以前は水田で牛による犁耕が行われていたとされる。調査区は概ね東西40m、南北15mの台形である。5m方眼のグリッド（1Aから8C）を設定し調査を行った。

小揚遺跡は主に平安時代の散布地として、およそ100m四方の規模で周知されている。今回の調査地点では縄文時代の遺構・遺物が主体となり出土した。検出された遺構は竪穴4基（S I 1～4）、土坑9基（S K 1～9）である。検出された遺物は縄文時代中期後半、後期初頭の土器を主体とし整理箱17箱分出土している。2B・3B・3Cグリッドにまたがり、新しい水田層の下に古い水田層を検出したが、出土遺物は少量の縄文土器のみで、平安時代や中近世の遺物は出土せず、古い水田層の時代を推定できる遺物は出土していない。斜面を造成した水田を耕作しているため、床土内に土器が拡散していた。住居をとらえにくかったが、牛による犁耕をしていたということから、東西に細長い水田区画の中で、遺構内の遺物も遺構の枠をはみ出して、東西方向に拡散し移動していることが考えられた。

第2節 遺構・遺物

【竪穴】1号竪穴（S I 1）（第5～7図、写真図版1）4B～5Cグリッドに位置する。南側は石積みに攪乱されている。焼土は検出していないが中央部で炉状の石組を検出した。石組の西側で石器製作時に産出されたと考えられる黒曜石の微細剥片集中箇所を検出した。検出した範囲で規模が5.5m程度の円形と考えられる。遺構確認面からの深さは10～20cmである。**2号竪穴（S I 2）**（第8図、写真図版1）6Cグリッドに位置する。重複関係はない。南側は石積みに攪乱されている。炉は検出していない。ピットを北西で1基、北壁の一部で周溝を検出した。検出した範囲で規模が4m程度の円形と考えられる。遺構確認面からの深さは10～30cmである。**3号竪穴（S I 3）**（第9図、写真図版1）5A～6Bグリッドに位置する。重複関係はSI4に切られる。炉は検出していない。ピットは南側で2基検出した。検出した範囲で規模が4.5m程度の円形と考えられる。遺構確認面からの深さは10～50cmである。**4号竪穴（S I 4）**（第10図、写真図版2）5B～6Bグリッドに位置する。重複関係はSI3を切る。南側は石積みに攪乱されている。炉は検出していない。ピットは北西で1基検出した。検出した範囲で規模が5m程度の円形と考えられる。遺構確認面からの深さは10～30cmである。

【土坑】1号土坑（S K 1）（第5・6図、写真図版2）4C～5Cグリッドに位置する1号竪穴内の土坑。長さ2.2m、幅1.6m、深さ80cm。**2号土坑（S K 2）**（第5・6図）4B～4Cグリッドに位置する1号竪穴内の土坑。長さ2.4m、幅1.9m、深さ30cm。**3号土坑（S K 3）**（第5・6図）4Cグリッドに位置する1号竪穴内の土坑。長さ1m、幅0.8m、深さ80cm。**4号土坑（S K 4）**（第5～7図）4Cグリッドに位置する1号竪穴内の土坑。長さ2.1m、幅1m、深さ40cm。**5号土坑（S K 5）**（第5～7図）5Cグリッドに位置する1号竪穴内の土坑。長さ0.8m、幅0.8m、深さ30cm。**6号土坑（S K 6）**4Cグリッドに位置する1号竪穴内の土坑。（第5～7図）長さ1.2m、幅0.9m、深さ60cm。**7号土坑（S K 7）**（第7図）7Cグリッドに位置する。長さ0.6m、幅0.5m、深さ10cm。**8号土坑（S K 8）**（第10図）6B～7Bグリッドに位置する1号竪穴内の土坑。長さ1.7m、幅0.7m、深さ40cm。**9号土坑（S K 9）**（第7図）4Bグリッドに位置する1号竪穴内の土坑。長さ1.2m、幅0.8m、深さ50cm。

【土器】

・1号竪穴（第11、12図、写真図版3）

覆土中および床面直上から多くの土器が出土したが器形のわかるものは少なく、多くが破片である。第11図1は口縁突起部破片で三叉状沈線などあり、井戸尻式期とみられる。2はやや肥厚した口縁部破片で

条線地文に隆線が見られる。3は隆帯で区画された肥厚口縁の土器。これらは曾利Ⅱ～Ⅲ式であろう。4～10は口縁部破片で渦巻に伴う幅広い沈線(4, 5)や平行沈線(7～12)が施されている。胴部では11～18のように短線や細い綾杉状沈線などがみられる。これらは曾利Ⅳの特徴を備えているものが多い。19～24は口縁部沈線あるいは胴部にハの字文が連続する曾利Ⅴ式土器で、24には把手が付くようだが破損している。26～33は加曾利E式系で特に31～33は微隆起を伴うE4式段階。33は注ぎ穴をもつ鉢形の土器か。円形刺突の25もこの一群であろう。34は横位の貼り付け隆線のある口縁、35～37は無文の口縁部破片。36, 37は中期終末の壺破片か。38～45は後期。特に38～41は沈線区画と磨消し縄文の称名寺1式。42には微隆起や円形刺突があり、43, 44には口縁に並行の沈線が走る。称名寺式期から堀之内1式であろう。45は堀之内1式の注口土器把手部。46も同時期の把手が付く鉢あるいは壺形か。47～49は中期後葉の環状突起をもつ壺形土器と思われ、特に49は終末期の双耳壺破片であろう。

第12図50～62は中期終末から後期初頭の土器。50, 51は床面近くから出土した小形土器。50の体部には縄文が施されるが器面の剥落が激しく明瞭ではない。口縁下には浅い横線が入る。51は手捏ね状のつくりで無文。52～56は底部破片で55は小形の台付土器。58～62は口縁部破片。円孔と沈線や貼付文があり称名寺式から堀之内1式期。

【SK 1】1～14は1号竪穴内の土坑SK 1出土土器。いずれも覆土中出土。1は把手状の張り出しをもち、2は隆帯状の縦線が連続する。3は斜行沈線で内折り口縁の土器。5はつなぎ弧文の口縁。他にも沈線文・綾杉状沈線や縄文の土器がある。これらは曾利Ⅱ式期(1～3)、Ⅲ～Ⅳ式期(4・5)、Ⅳ式期(6)、Ⅴ式期(7, 8)、加曾利E式系(10)などがある。12はX把手部分。13も縦沈線がありいずれも曾利式新段階。11は波状口縁の深鉢形土器で平行する沈線帯の間に重弧状沈線が重なり合う。鱗状の沈線のような感もあるが曾利Ⅲ～Ⅳ段階とみられる。14は覆土中位にて仰向けの状態で出土した土偶。左手先及び右半身胴体上部の破片で、右肩・胴体・首にて割れており接合。扁平なバンザイタイプの土偶。顔面は円形刺突と沈線で逆三角形に表現され、胸部および背面には粗い沈線が数条走る。赤褐色で胎土は粗く脆い。形状からは曾利新段階とみられるが、文様からは後期初頭的な感がある。

【SK 2】1は1号竪穴内土坑の覆土上部出土のX把手土器。頸部から胴部にかけての大破片。把手は4単位とみられ、低い隆帯で結ばれる。以下には大きな渦巻き文があり空間部は細い条線が密集。曾利Ⅳ式期であろう。

【SK 5】1はSK5覆土出土で無文の土器。

【竪穴の時期】以上の土器について第11図1, 3, 4, 9, 16, 29, 34, 35, 37, 48, 49, 第12図50～52, 62が1号竪穴床近くから出土していることから混入はあるものの、本址の時期は曾利Ⅳ式期を中心とした中期終末と考えられる。

・2号竪穴(第13, 14図、写真図版4)

覆土中および床面直上から多くの土器が出土したが殆どが破片。第13図1は他の土器とは異なり砂粒多い胎土緻密な破片。集合沈線の五領ヶ台式期か。2は口縁部破片で、井戸尻～曾利Ⅰ式期か。4～7は長胴形の胴部破片で、8～10を含め曾利Ⅱ式期であろう。3は把手破片で曾利Ⅰ～Ⅱ式期。11～16は肥厚帯口縁の渦巻き文などを含む曾利Ⅲ～Ⅳ式期。19, 21は曾利式終末期で特に19は壺形土器頸部付近破片か。22～34は加曾利E式系の土器。微隆起文(22～25, 29, 33)等、円形刺突(24, 25)等がある。36～第14図74は後期の土器。まず37～49は沈線区画と磨消し縄文主体の称名寺Ⅰ式の一群。50～64は沈線等を中心とした称名寺式から堀之内1式。特に58, 61, 63は口縁部で堀之内1式。65は無文で小型の壺形土器。66～68は口縁部あるいは口縁装飾部破片で注口部(67, 69)もみられる。称名寺式～堀之内1式段階である。71は土器片利用の円盤。

【竪穴の時期】以上の土器の内、第13図2, 3, 8, 10, 16, 19～21, 24～28, 30～34, 第14図40, 41, 44～48, 50～58, 60～62, 65～67, 69, 71等が下層から床面の出土土器であり、混入はあるものの特にまとまりのある土器群から判断すると、本竪穴は称名寺Ⅰ式期の住居であろう。

・3号竪穴（第15、16図、写真図版5）

覆土および床面直上から破片が出土。多くが中期後半で、曾利Ⅰ式（第15図1、2）、Ⅰ～Ⅱ式（同図3～35）、Ⅱ～Ⅲ式（同図36～51、第16図52～55）、Ⅲ～Ⅳ式（第16図56～67）、Ⅳ～Ⅴ式（同図69、70）、加曾利E式系（同図71～81）を含む。まず第15図では1、2が立体的な把手部分破片で2はpit1からの出土。3、6、8、9には刻目が連続するための隆帯がある。12、13は重弧文の口縁部破片。18～20は斜格子状の隆線が頸から胴上部に巡るもの。42～45は口縁部破片で幅広の沈線などが走る。39は肥厚帯口縁の一部か。47、48、51等の胴部破片では細い条線が縦方向に施されている。第16図57～61は沈線で区画されるくびれのゆるやかな器形の口縁部破片。67はX把手付き土器の把手部破片。加曾利E式系とした71～81であるが、特に微隆起をもつ79や80はE4式段階であろう。その他84～87は縄文、88～90は無文であるが89は浅鉢、90は壺形土器であろう。91も無文であるが、端部が平坦であることから器台形土器と思われる。92～95は底部。96～99は壺形をなすが特に97～99は有孔罅付土器である。いずれも孔は罅を貫通。100は土器片利用の円盤。101は堀之内式土器破片。

【竪穴の時期】以上の土器片の内、第15図1、3、7～9、14、24、30、35、41、46、50、第16図54、56、67、70、72、75、86、90、94、95、97等が遺構内の下層から床面出土である。このことから本竪穴遺構は曾利Ⅱ式ないしⅢ期を中心とした時期と考えられる。

・4号竪穴（第17、18図、写真図版6）

覆土中および床面直上から曾利古段階から新段階・後期前葉までの土器片が出土。第17図1は曾利Ⅰ式期の突起部破片で2も類する。3～9は曾利Ⅰ～Ⅱ式期と思われ、連続刻目の隆線が口縁部（5）や頸部に横走（7）あるいは胴部に縦走する（9）ものがある。4は波状を含めて三本隆線が弧を描いて頸部から胴部に走る。10～21は曾利Ⅱ式を中心とした破片。深鉢の胴部破片が多いようだ（11、13～17）。22～30は曾利Ⅲ～Ⅳ式期とみられる破片。22、23は肥厚帯口縁でやや古段階、24はつなぎ弧文のやや新段階か。31～35は曾利Ⅳ式期頃とみられるもので、くびれの少ない器形（32）やX把手部分破片（34）もある。36～42は磨消縄文や微隆起のみられる加曾利E式系の土器。40～42を含めE4式段階が多い。43、44は中期末から後期初頭であろう。第18図45～54は後期称名寺Ⅰ式から堀之内Ⅰ式期。特に45は袋状の口縁で「の」字状の貼付が特徴。46と共に称名寺Ⅰ式期。49～54は堀之内Ⅰ式であろう。55～57は縄文が施される中期末から後期の土器。58～65は無文の口縁部破片。口縁が内側に肥厚する58や61は曾利古式段階であろう。66、67は細めの隆帯が貼り付けられるが66は壺形か。68は底部付近、69は台付き、70は手捏ねのミニチュア土器。72、73は底部。端部が平坦な74や75は台付土器あるいは器台形土器であろう。特に75には透かしの円孔が二箇所に残り、縄文が施されている。71は土器片利用の円盤形土製品。

【SK8】1～9がある。条線や沈線、肥厚帯口縁付近などの破片。曾利ⅢからⅣ式期（1～4）、堀之内Ⅰ式の口縁破片（5）、縄文（6、7）、無文（8、9）などがある。9は端部が平坦なことから器台形土器であろうか。

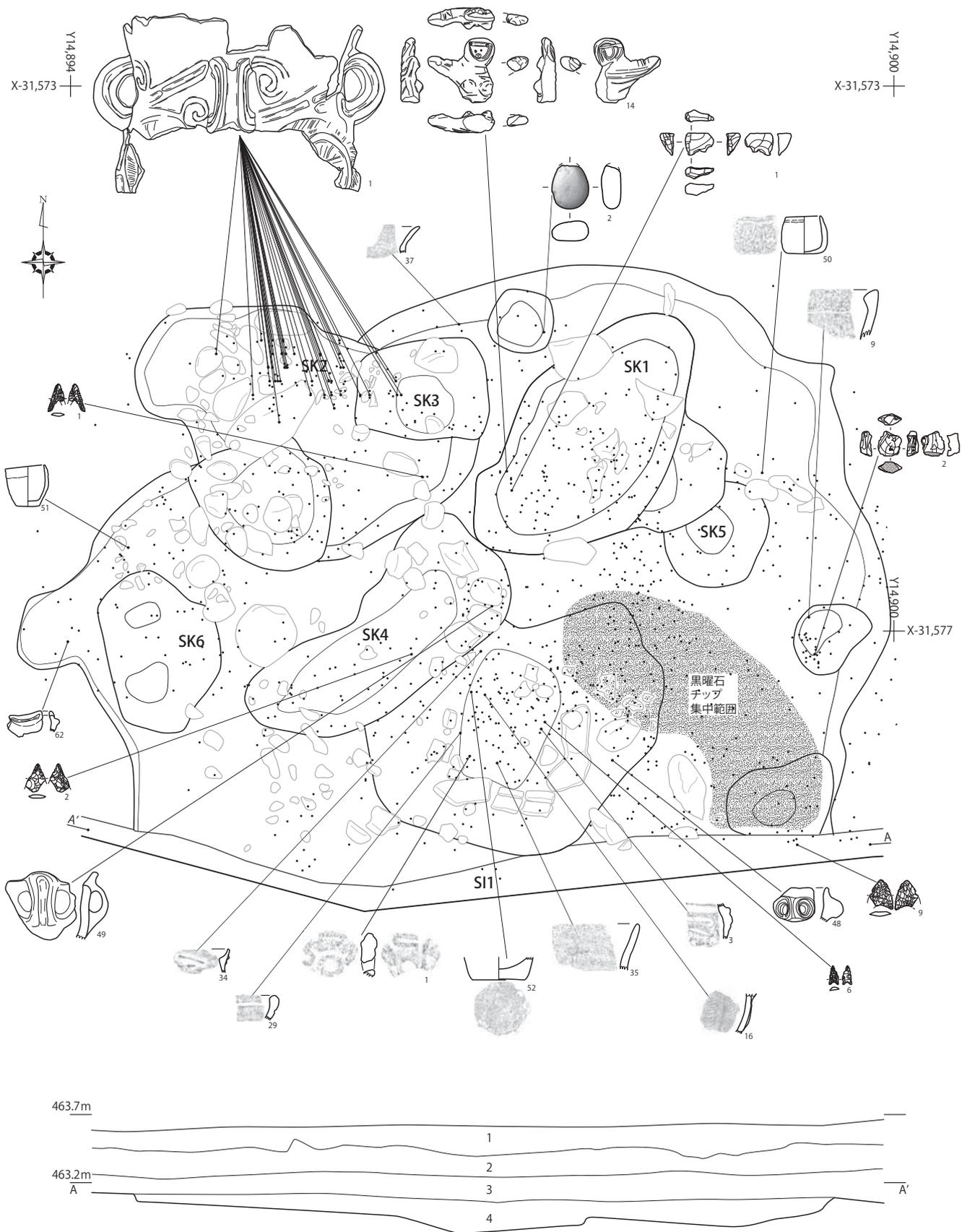
【竪穴の時期】以上の土器の内、第4号竪穴内での下層から床面にかけたの出土は第17図5、6、10、14、21、23、25、26、31、34、35、36、39、42、第18図45、46、50、51、53、55～57、59、60、62～67、70～73である。これらは曾利Ⅱ式～Ⅳ式、後期前葉を含む。称名寺式期の2号竪穴に隣接することからこれらの混入を考慮すると、本址の時期は曾利後半期（Ⅲ～Ⅳ式期）になろうか。

・7号土坑、9号土坑（第18図、写真図版6）

【SK7】1は縄文の付けられた加曾利E式系でE3-E4段階であろう。【SK9】沈線のための1は堀之内Ⅰ式、縄文とつなぎ弧文状の沈線がある2は曾利式系あるいは加曾利E式系の中期終末期であろう。

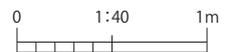
【石器】（第19～21図、写真図版7）

第19図10は楔状に両極に剥離のある剥片、18は石匙、23は微細剥離が並ぶ剥片、28は異形石器、38は石核、その他は石鏃である。第20図1～3は石核、8、10は磨製石斧、11、12、18は打製石斧、13は粗製石匙、その他は剥片である。第21図1～10、13、14、18、21は磨石・凹石、11、16、17、19は台石、12は石棒、15は多孔石、20は石皿である。

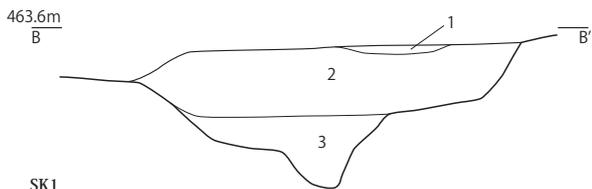
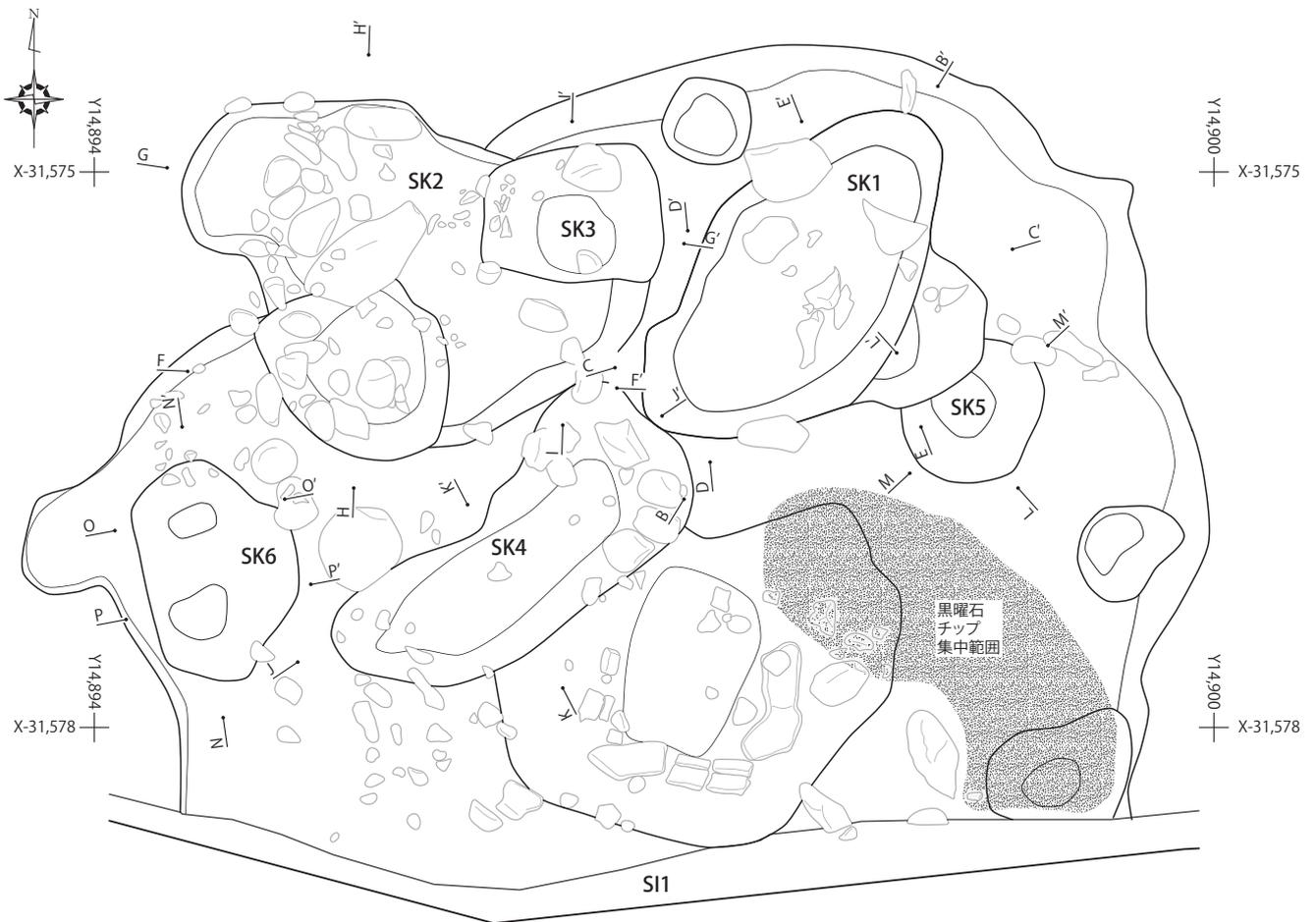


SI1

- 1 灰黄褐色 (10YR4/2) シルト 締まりややあり 粘性ややあり [表土 ブドウ耕作土]
- 2 灰黄褐色 (10YR5/2) 粘土 締まりあり 粘性あり 径1mm黄色粒1% [水田床土(灰色)]
- 3 暗褐色 (10YR/3/3) シルト 締まりあり 粘性あり 径2mm黄色粒3% 径1mm白色粒1%
- 4 暗褐色 (10YR/3/4) シルト 締まりあり 粘性あり 径2mm黄色粒2% 径1mm白色粒3% 径2mm炭化粒1% [SI1]

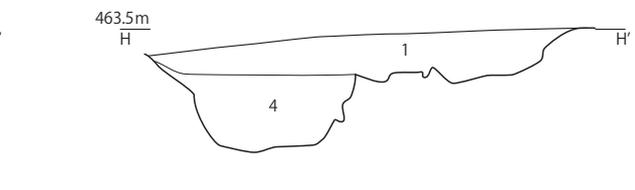
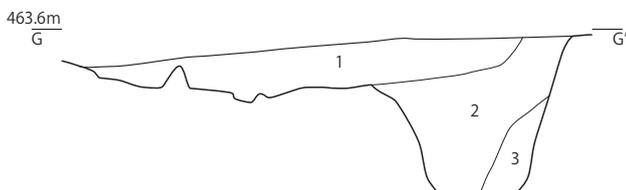
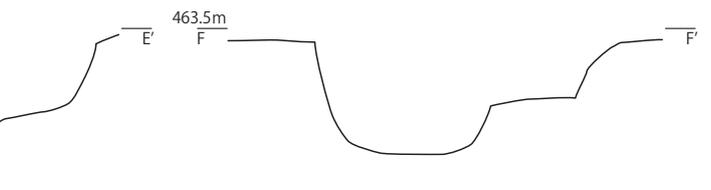
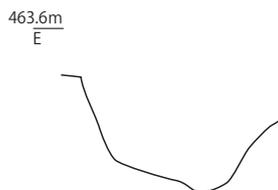
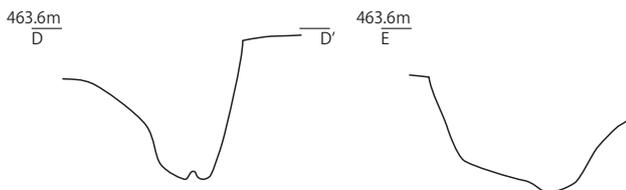


第5図 1号竪穴(1) 遺構



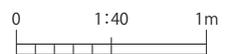
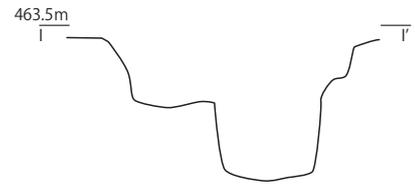
SK1

- 1 黄褐色 (10YR5/6) 粘土 締まりあり 粘性あり 径1mm白色粒3% [水田床土 (灰色)]
- 2 褐色 (10YR4/4) シルト 締まりあり 粘性あり 径5mm白色粒3% 径5mm黄色粒3%
- 3 暗褐色 (10YR3/4) シルト 締まりあり 粘性あり

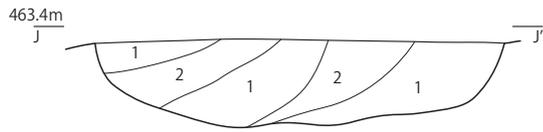


SK2・SK3

- 1 褐色 (10YR4/4) シルト 締まりあり 粘性あり 径2mm白色粒2% 径2mm黄色粒2% [SK2]
- 2 灰黄褐色 (10YR4/2) シルト 締まりあり 粘性あり 径2mm白色粒5% 径2mm黄色粒2% [SK3]
- 3 褐色 (7.5YR4/4) シルト 締まりあり 粘性あり 径1mm白色粒1% 径2mm黑色粒1% [SK3]
- 4 暗褐色 (10YR3/3) シルト 締まりあり 粘性あり 径1mm白色粒2% 径1mm炭化粒1%

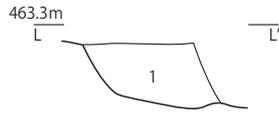
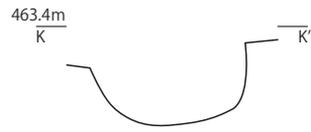


第6図 1号竪穴(2) 遺構



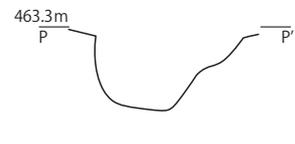
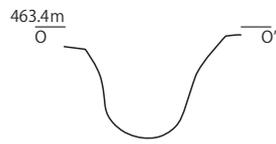
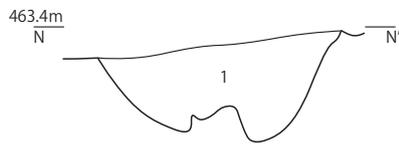
SK4

- 1 黒褐色(10YR3/2)シルト 締まりあり 粘性あり 径2mm白色粒2% 径2mm黄色粒2% 径1mm赤色粒1%
 2 にぶい黄褐色(10YR4/3)シルト 締まりあり 粘性あり 径1mm白色粒2%



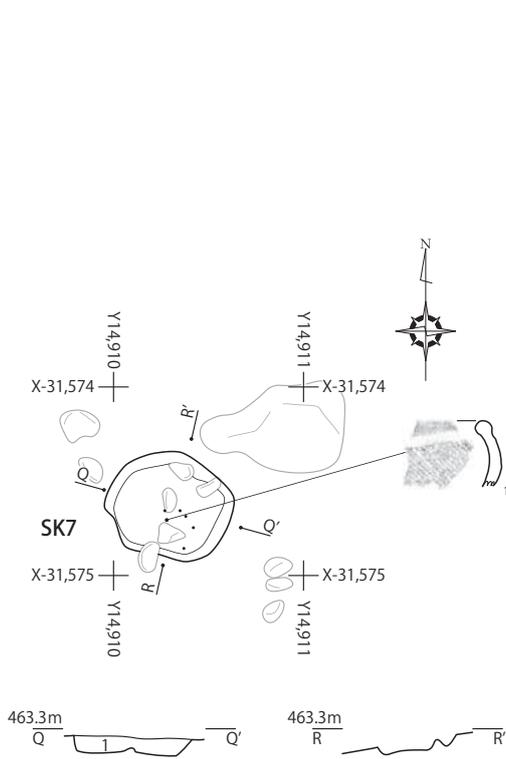
SK5

- 1 暗褐色(10YR3/4)シルト 締まりあり 粘性あり 径2mm白色粒3% 径2mm黄色粒2% 径2mm炭化粒1%



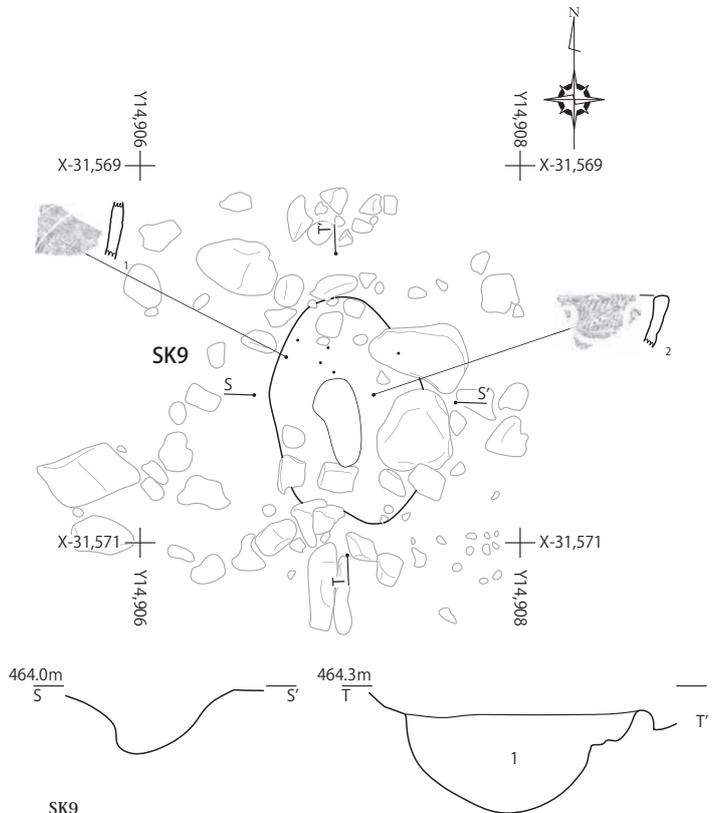
SK6

- 1 暗褐色(10YR3/4)シルト 締まりあり 粘性あり 径2mm白色粒2% 径2mm炭化粒1%



SK7

- 1 暗褐色(10YR3/3)シルト 締まりあり 粘性あり 径1mm黄色粒1%

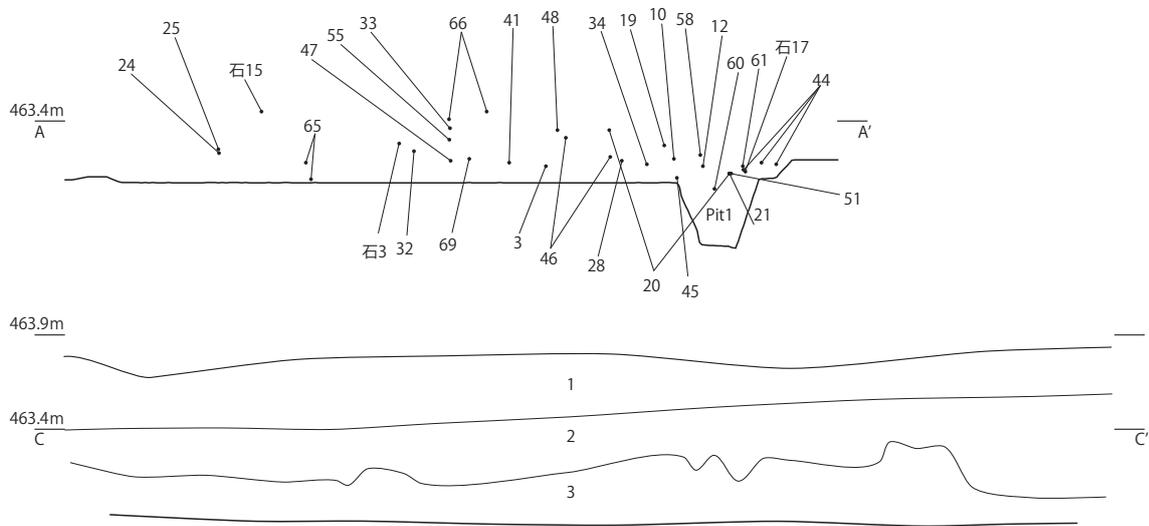
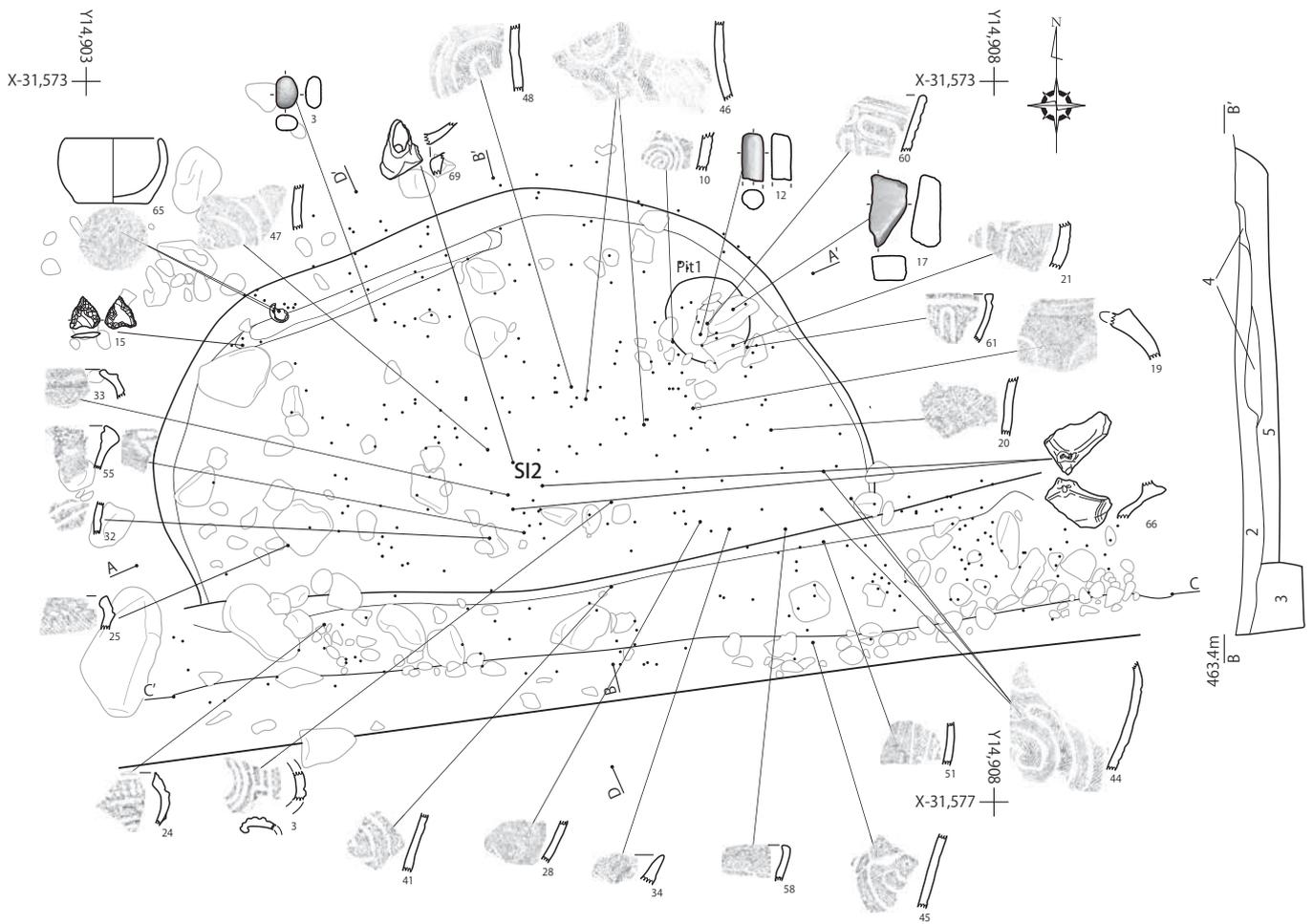


SK9

- 1 黒褐色(10YR2/2)シルト 締まりあり 粘性ややあり
 径5mm炭化粒1% 径2mm黄色粒3% 径2mm白色粒2% 径2mm黒色粒2%

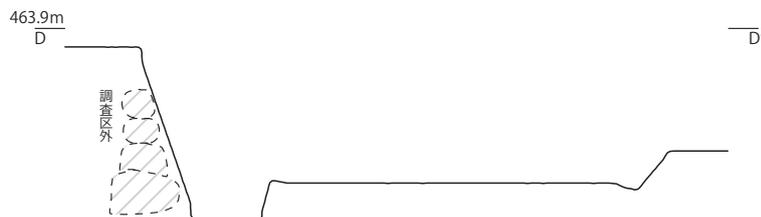


第7図 1号竪穴(3)・土坑 遺構

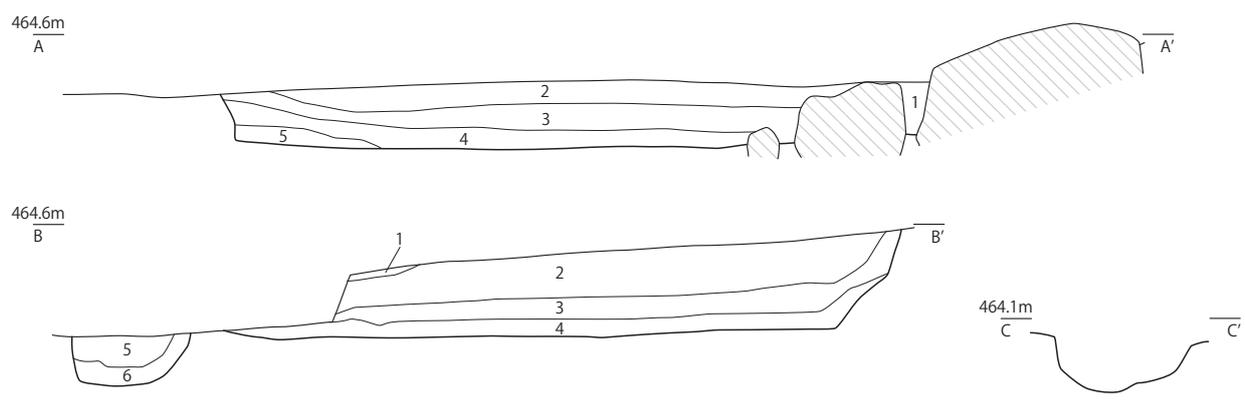
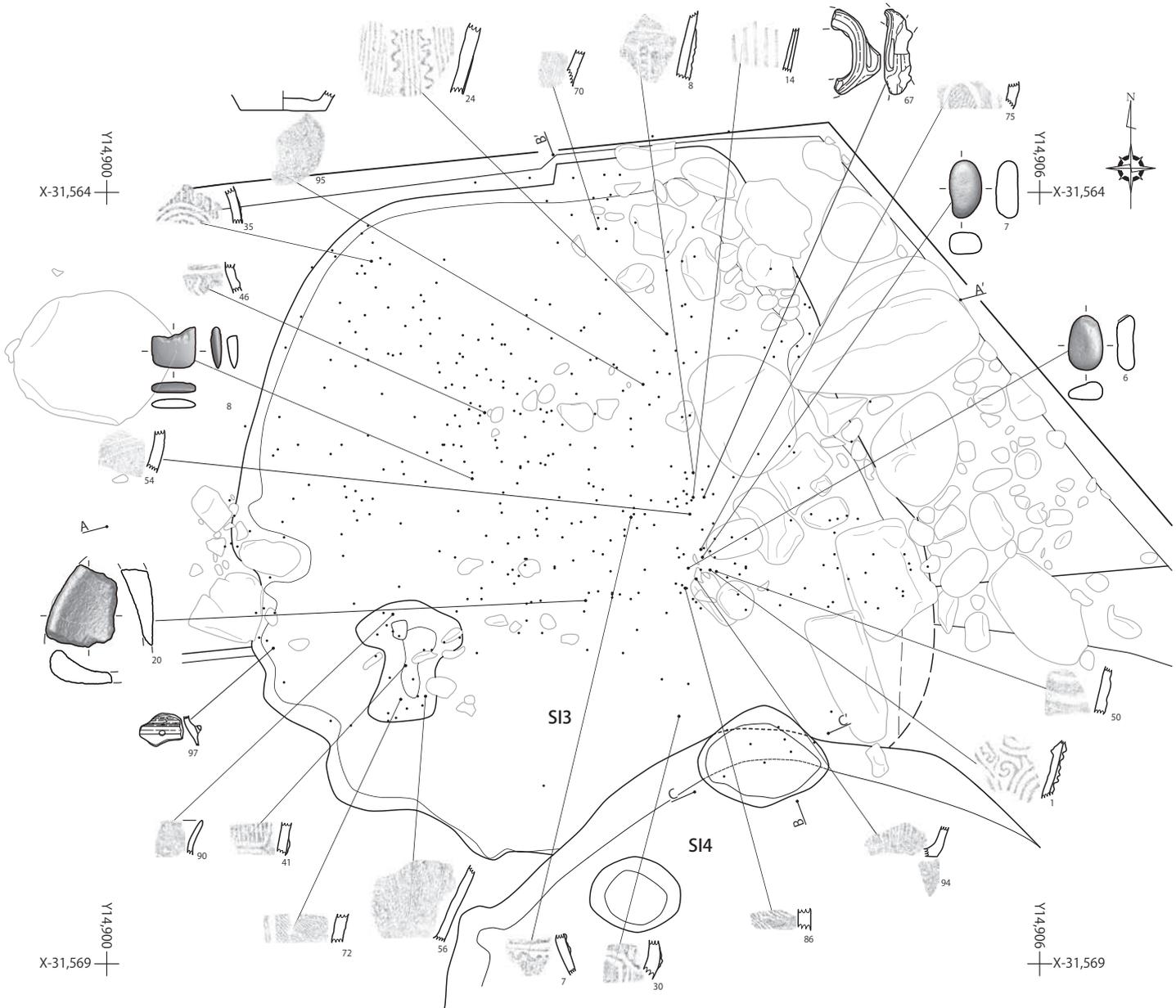


SI2

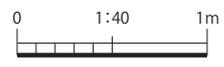
- 1 灰黄褐色 (10YR4/2) シルト 締まりややあり 粘性ややあり [表土 プドウ耕作土]
- 2 灰黄褐色 (10YR5/2) 粘土 締まりあり 粘性あり 径1mm黄色粒1% [水田床土(灰色)]
- 3 黒褐色 (10YR3/2) シルト 締まりあり 粘性あり 黒色褐鉄鉱多い 径10~15cm亜角礫30%(石積み裏込め礫) 径5mm暗褐色土粒30% [水田地境石積み攪乱]
- 4 黒褐色 (10YR3/2) シルト 締まりあり 粘性あり 径2mm赤色粒1% 径2mm黄色粒1% [SI2]
- 5 暗褐色 (10YR3/3) シルト 締まりあり 粘性あり 径2mm黄色粒3% 径1mm白色粒1% [SI2]



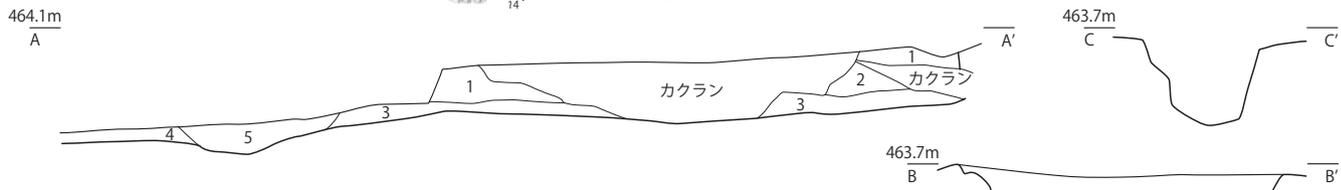
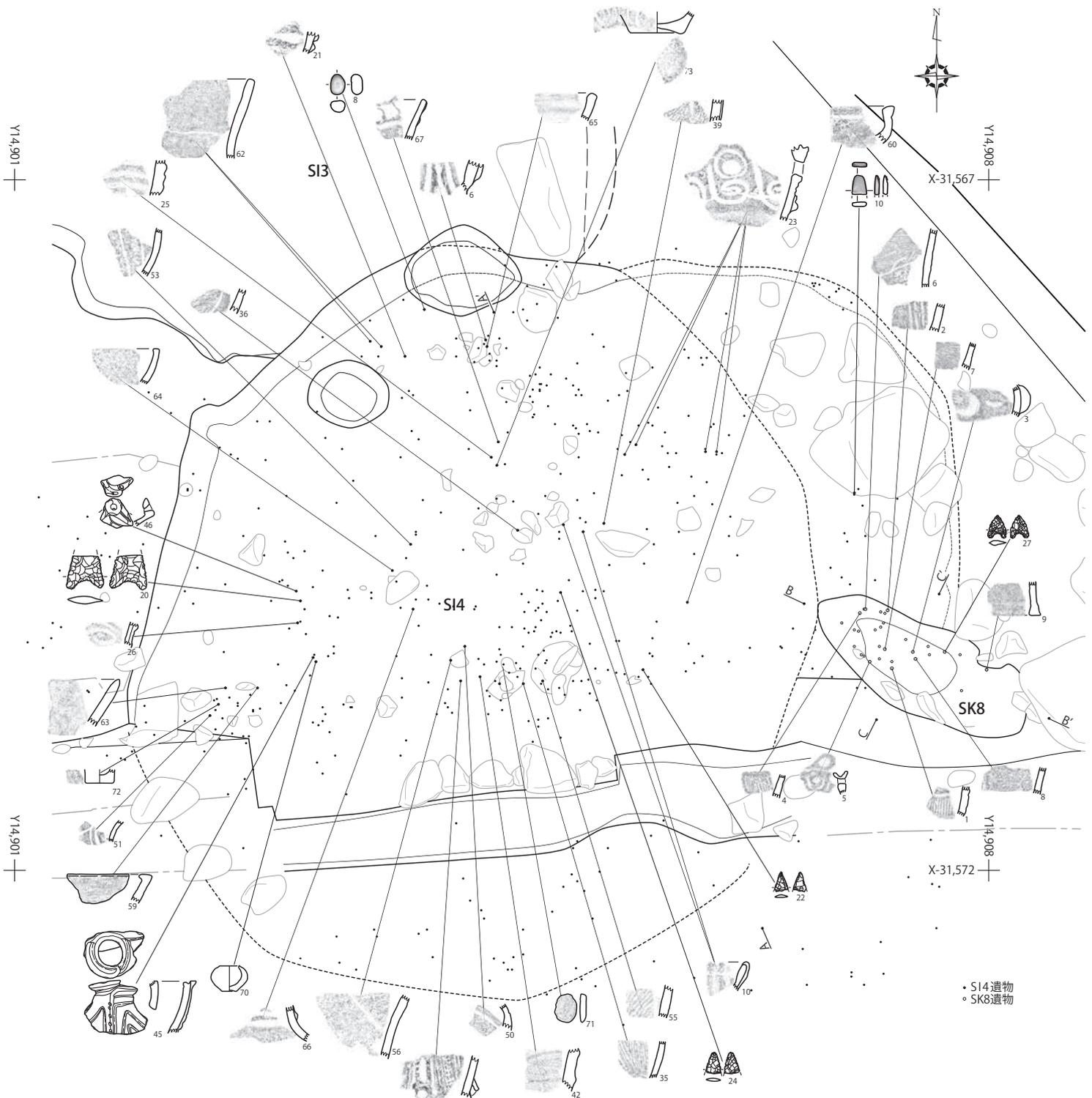
第8図 2号竖穴 遺構



- SI3
- 1 黒褐色 (10YR3/2) 粘土 締まりあり 粘性あり 径 5 mm 黒色粒 10% [水田床土]
 - 2 暗褐色 (10YR3/3) シルト 締まりあり 粘性あり 径 2 mm 白色粒 3% 径 5 mm 黄色粒 2% 径 3 mm 黒色粒 2% 径 2 mm 炭化粒 1%
 - 3 暗褐色 (7.5YR3/3) シルト 締まりあり 粘性あり 径 2 mm 黄色粒 3% 径 3 cm 亜角礫 1%
 - 4 黒褐色 (10YR3/2) シルト 締まりあり 粘性あり 径 5 mm 黄色粒 2% 径 10 cm 亜角礫 1%
 - 5 黒褐色 (10YR2/3) シルト 締まりあり 粘性あり 径 2 mm 黄色粒 3% 径 2 mm 白色粒 1%
 - 6 暗褐色 (10YR3/3) シルト 締まりあり 粘性あり 径 1 mm 白色粒 3% 径 1 mm 黄色粒 3% 径 10 mm 円礫 2%
 - 7 暗褐色 (10YR3/3) シルト 締まりあり 粘性あり 径 2 mm 炭化物 1%



第9図 3号竪穴 遺構



- SI4
- 1 暗褐色 (10YR3/3) シルト 締まりあり 粘性あり 径2mm炭化物1% [SI4]
 - 2 暗褐色 (10YR3/3) シルト 締まりあり 粘性あり 径2mm黄色粒2% [SI4]
 - 3 黒褐色 (7.5YR3/2) シルト 締まりあり 粘性あり 径5mm炭化粒1% 径1mm白色粒3% [SI4]
 - 4 灰黄褐色 (10YR5/2) 粘土 締まりあり 粘性あり 径1mm黄色粒1% [水田床土 (灰色)]
 - 5 褐灰色 (10YR6/1) 粘土 締まりあり 粘性あり 径1mm黄色粒1% [水田水路]

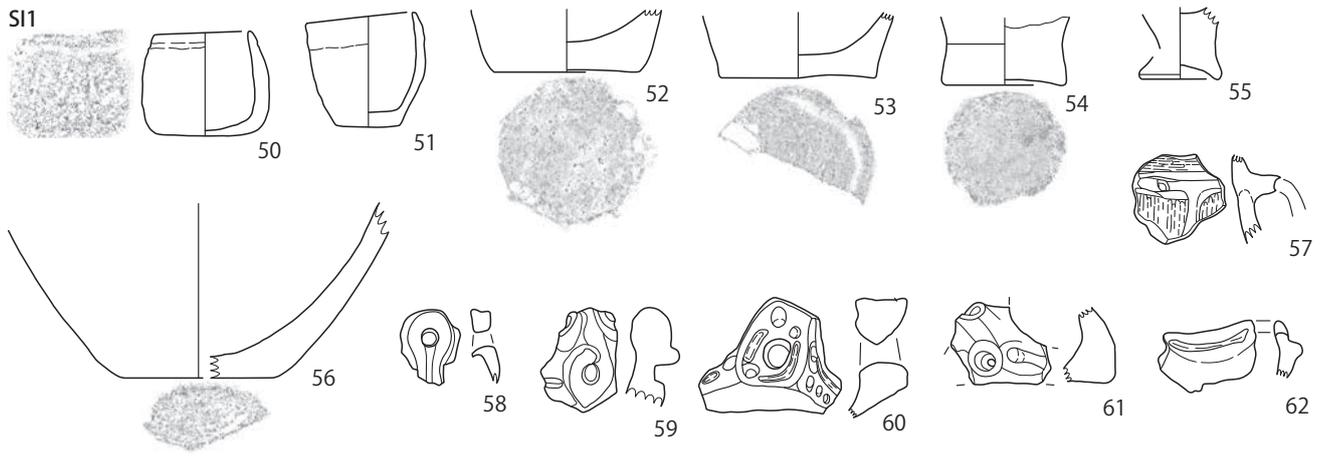
- SK8
- 1 黒色 (7.5YR2/1) シルト 締まりあり 粘性あり 径2mm黄色土粒2%

第10図 4号竖穴 遺構

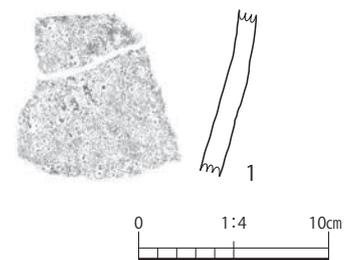
S11



第11图 1号竖穴(1) 遺物 (土器)



SK5



第12图 1号竖穴(2) 遺物(土器)

S12



第13图 2号竖穴(1) 遺物 (土器)

SI2



第14图 2号竖穴(2)遺物(土器)

S13



第15图 3号竖穴(1) 遺物 (土器)

S13

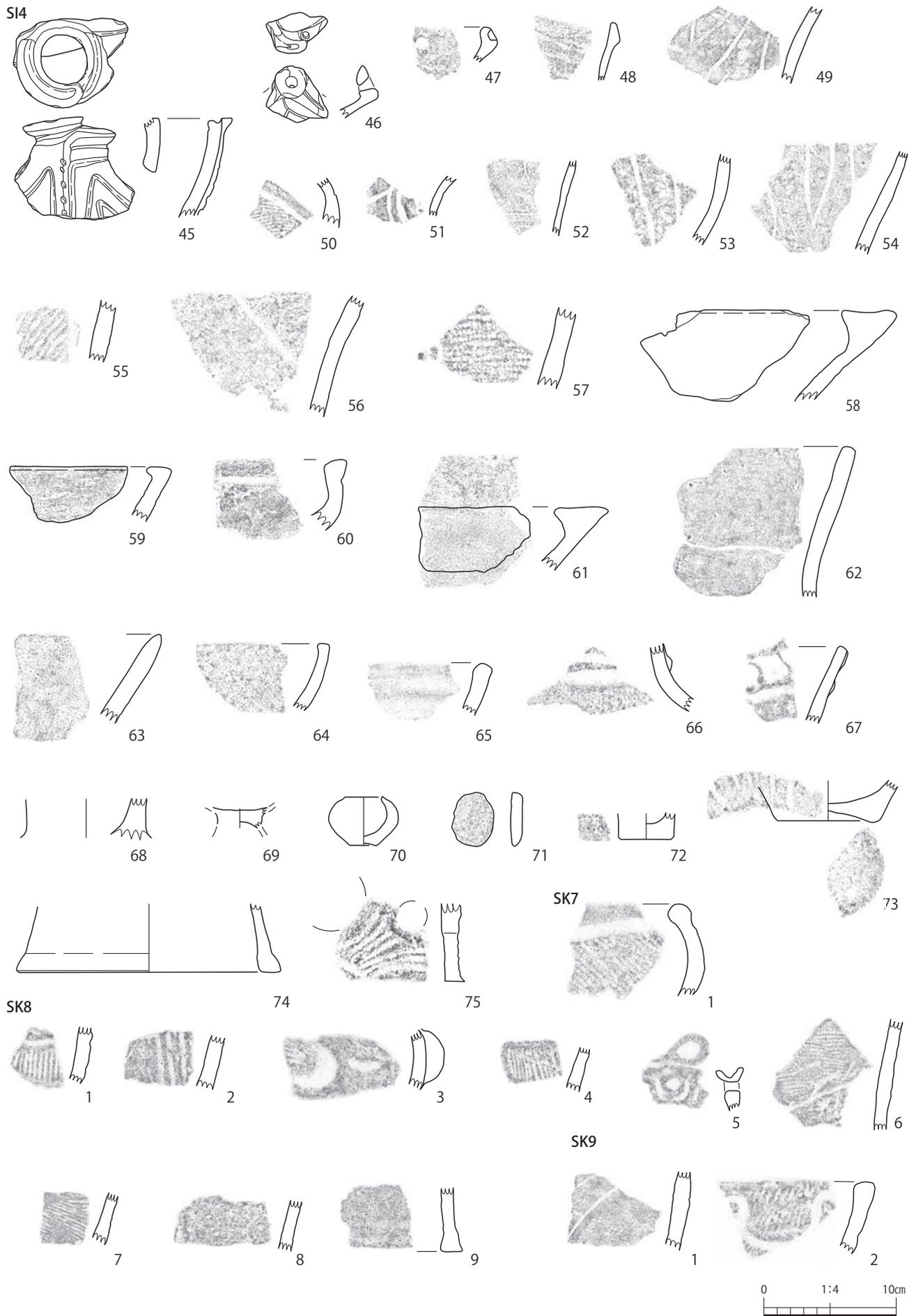


第16图 3号竖穴(2)遺物(土器)

SI4

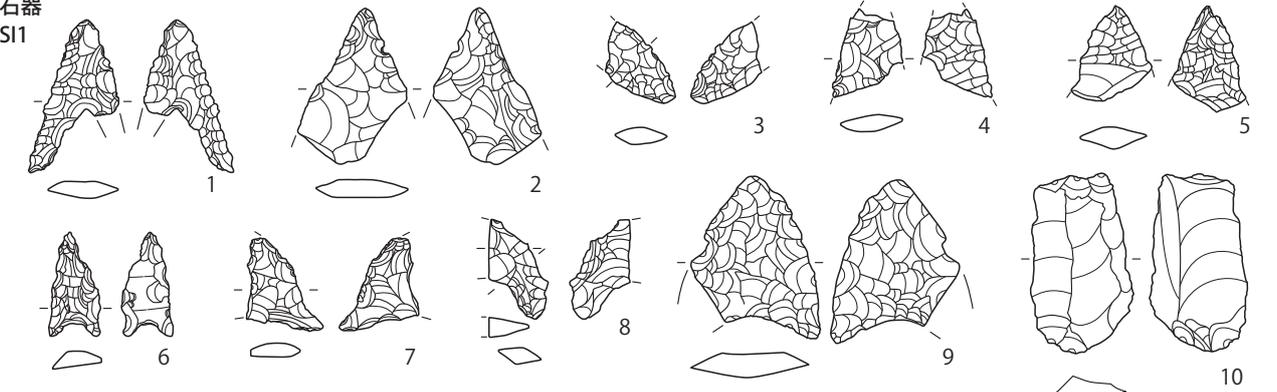


第17图 4号竖穴(1) 遺物 (土器)

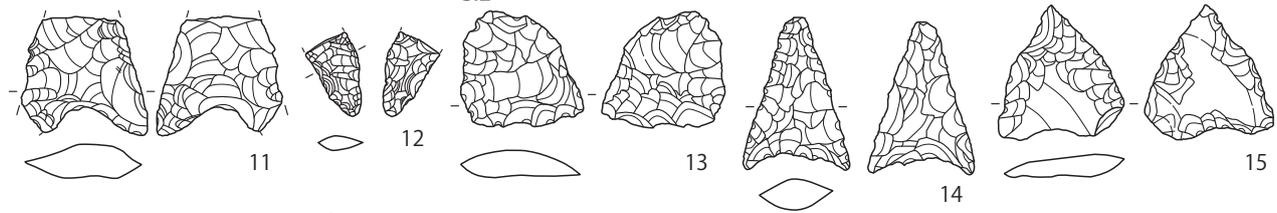


第18图 4号竖穴(2)遺物(土器)

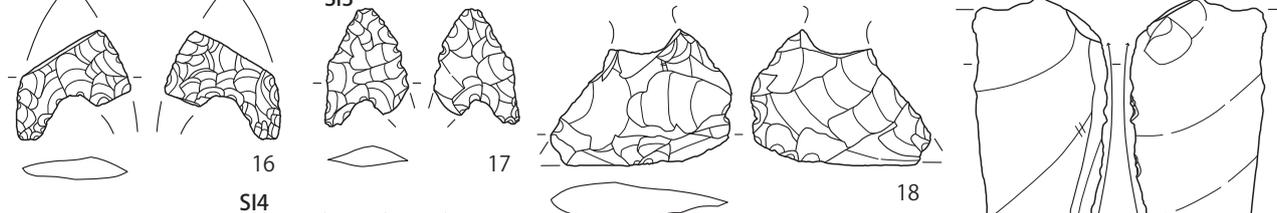
石器
SI1



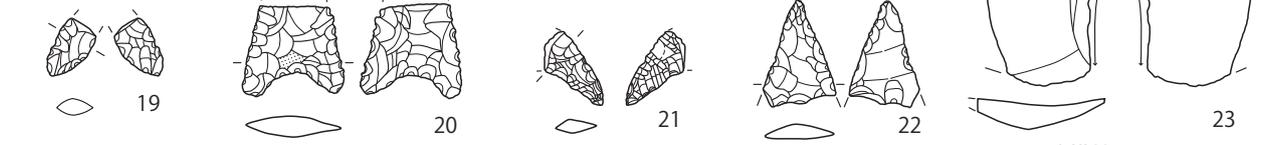
SI2



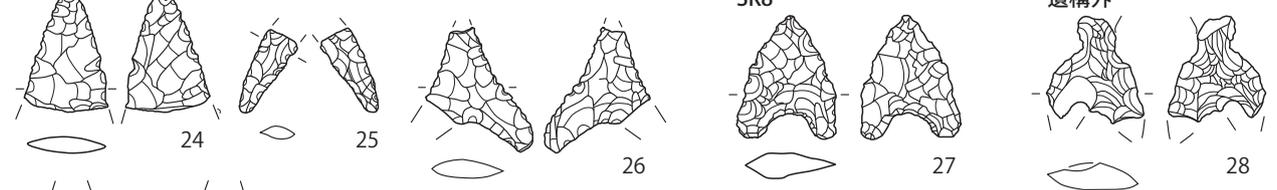
SI3



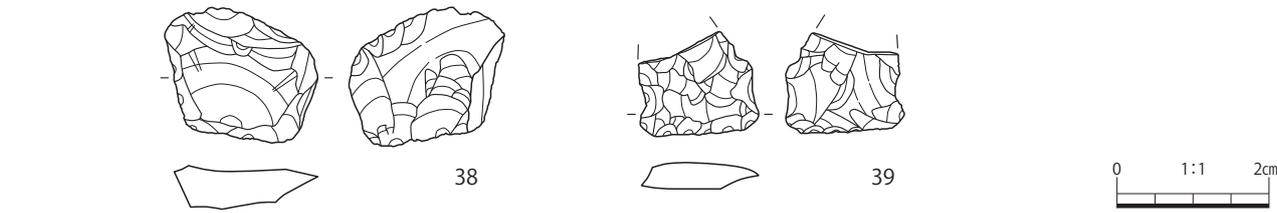
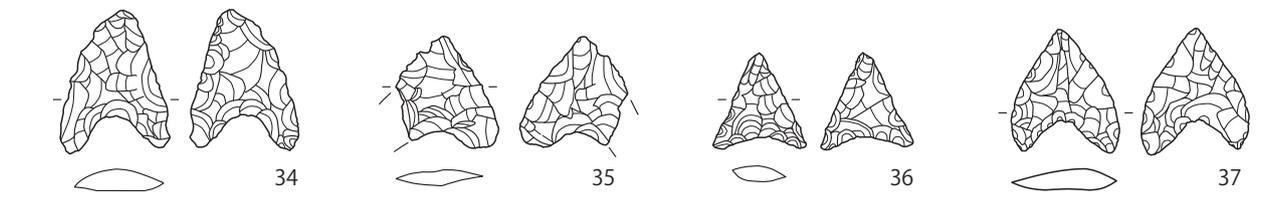
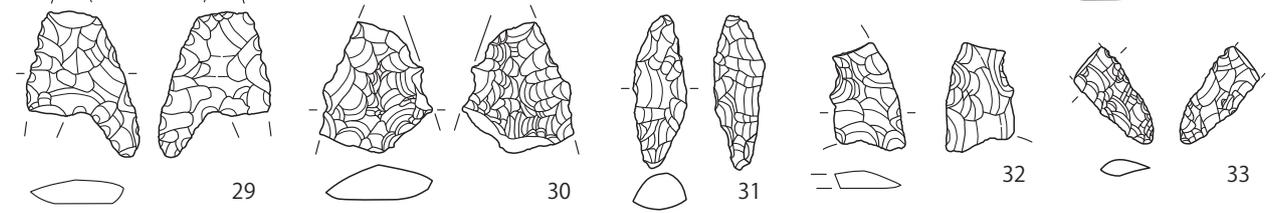
SI4



SK8

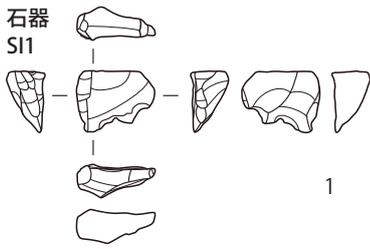


遺構外

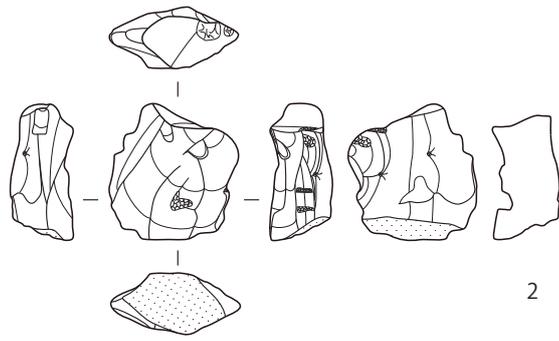


第19図 1~4号竖穴(1) 遺物 (石器)

石器
SI1

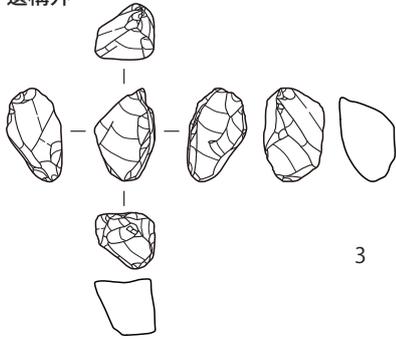


1

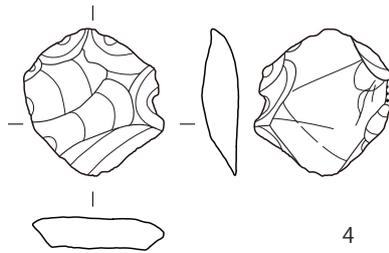


2

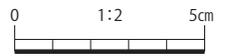
遺構外



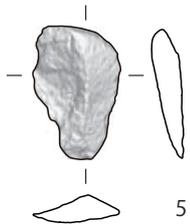
3



4

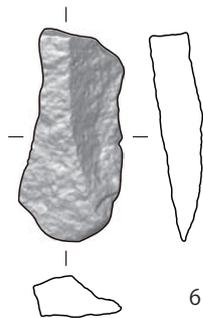


SI1



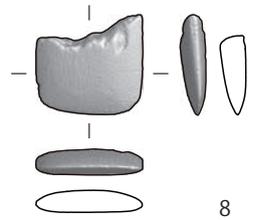
5

SI2

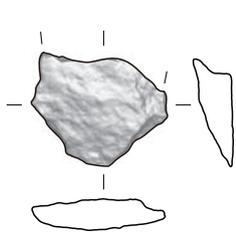


6

SI3

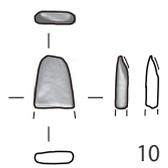


8



9

SI4



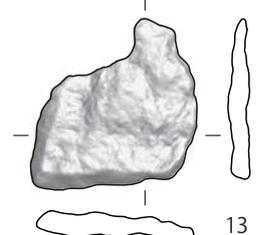
10



11



12



13



14



15

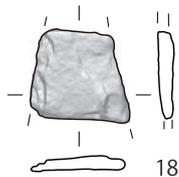


16

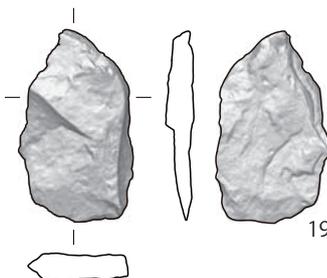


17

遺構外



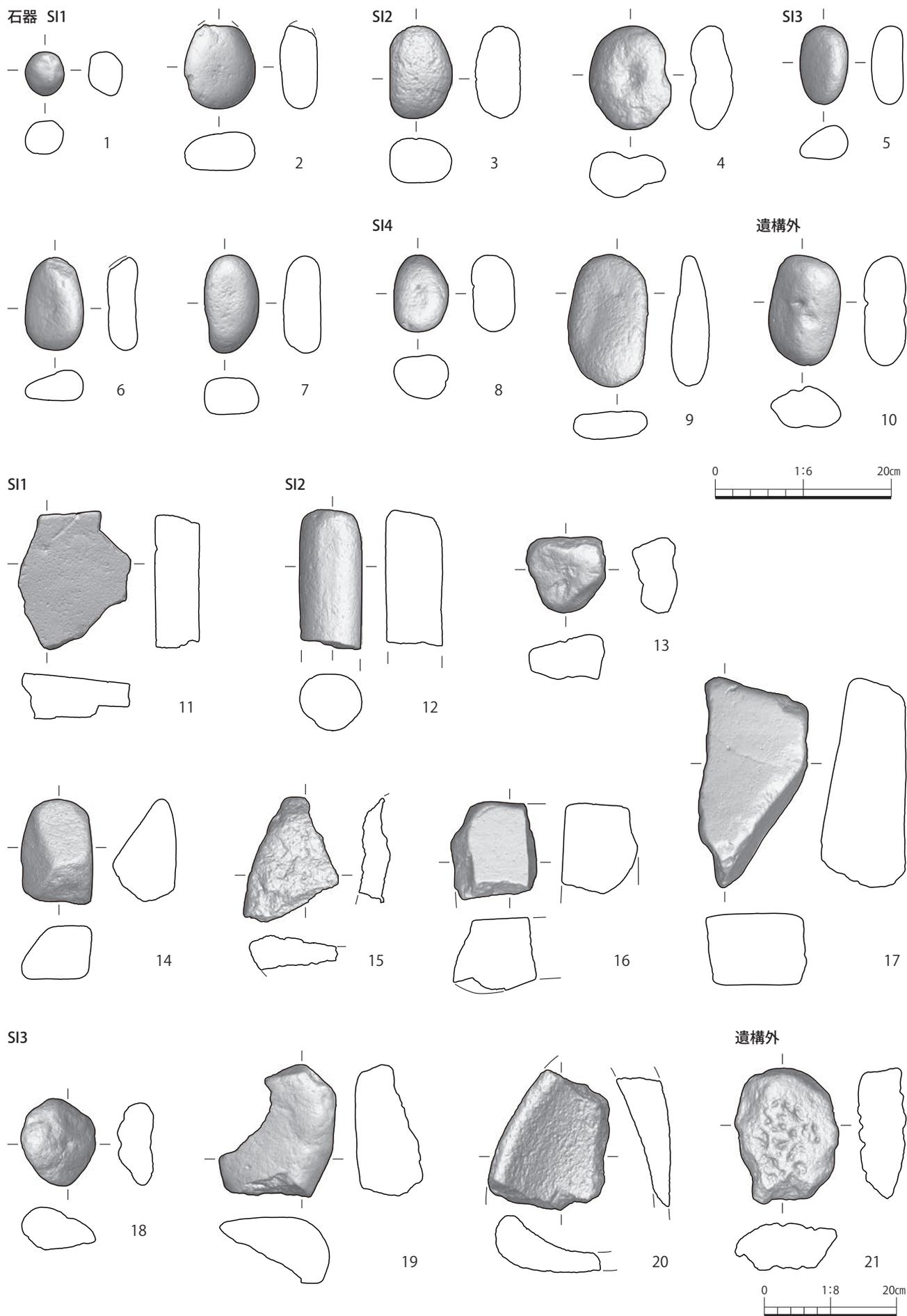
18



19



第20图 1~4号竖穴(2) 遺物 (石器)



第 21 图 1~4号竖穴(3) 遺物 (石器)

表2 遺物観察表

※数値単位はcm、(数値)は復元・残存値

遺構名	遺物番号	図番号	写真番号	種別	器種	部位	口径/長	底径/幅	器高/厚	色調	焼成	胎土	備考
S11	1	第11図	図版3	縄文土器	深鉢形土器	口縁突起部	—	—	(6.4)	赤褐色5YR4/6	良好	石英・長石	
S11	2	第11図	図版3	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(4.1)	赤褐色5YR4/6	良好	石英・長石	
S11	3	第11図	図版3	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(5.2)	赤褐色5YR4/6	良好	石英・長石	
S11	4	第11図	図版3	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(7.5)	赤褐色5YR4/6	良好	石英・長石	
S11	5	第11図	図版3	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(6.2)	赤褐色5YR4/6	良好	石英・長石	
S11	6	第11図	図版3	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(9.5)	褐色5YR4/4	良好	石英・長石	
S11	7	第11図	図版3	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(6.7)	赤褐色5YR4/6	良好	石英・長石	
S11	8	第11図	図版3	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(4.2)	明赤褐色5YR5/6	良好	石英・長石	
S11	9	第11図	図版3	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(7.3)	赤褐色5YR4/6	良好	石英・長石	
S11	10	第11図	図版3	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(5.6)	明赤褐色5YR5/6	良好	石英・長石	
S11	11	第11図	図版3	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(5.6)	明赤褐色5YR5/6	良好	石英・長石	
S11	12	第11図	図版3	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(8.0)	褐色7.5YR4/4	良好	石英・長石	
S11	13	第11図	図版3	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(4.2)	明褐色7.5YR5/6	良好	石英・長石	
S11	14	第11図	図版3	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(5.7)	褐色7.5YR4/4	良好	石英・長石	
S11	15	第11図	図版3	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(4.0)	明赤褐色5YR5/6	良好	石英・長石	
S11	16	第11図	図版3	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(5.8)	明赤褐色5YR5/6	良好	石英・長石	
S11	17	第11図	図版3	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(3.2)	赤褐色5YR4/6	良好	石英・長石	
S11	18	第11図	図版3	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(8.6)	に3.5V褐色7.5YR7/4	良好	石英・長石	
S11	19	第11図	図版3	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(7.6)	赤褐色5YR4/6	良好	石英・長石	
S11	20	第11図	図版3	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(5.3)	明褐色7.5YR5/6	良好	石英・長石	
S11	21	第11図	図版3	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(5.0)	に3.5V褐色7.5YR6/4	良好	石英・長石	
S11	22	第11図	図版3	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(7.0)	明褐色7.5YR5/6	良好	石英・長石	
S11	23	第11図	図版3	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(3.7)	明褐色7.5YR5/6	良好	石英・長石	
S11	24	第11図	図版3	縄文土器	蓋形土器	胴部	—	—	(5.3)	明褐色7.5YR5/6	良好	石英・長石	
S11	25	第11図	図版3	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(4.1)	赤褐色5YR4/6	良好	石英・長石	
S11	26	第11図	図版3	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(6.3)	明赤褐色5YR5/6	良好	石英・長石	
S11	27	第11図	図版3	縄文土器	蓋形土器	口縁部	—	—	(8.6)	明赤褐色5YR5/6	良好	石英・長石	
S11	28	第11図	図版3	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(6.2)	明褐色7.5YR5/6	良好	石英・長石	
S11	29	第11図	図版3	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(3.6)	赤褐色5YR5/6	良好	石英・長石	
S11	30	第11図	図版3	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(4.4)	明褐色7.5YR5/6	良好	石英・長石	
S11	31	第11図	図版3	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(8.0)	明黄褐色10YR6/6	良好	石英・長石・赤色粒	
S11	32	第11図	図版3	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(4.8)	明赤褐色5YR5/6	良好	石英・長石・赤色粒	
S11	33	第11図	図版3	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(3.1)	赤褐色5YR4/8	良好	石英・長石	
S11	34	第11図	図版3	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(3.5)	赤褐色5YR4/6	良好	石英・長石	
S11	35	第11図	図版3	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(6.8)	明赤褐色5YR5/6	良好	石英・長石	
S11	36	第11図	図版3	縄文土器	蓋形土器	口縁部	—	—	(6.4)	明赤褐色5YR5/6	良好	石英・長石	
S11	37	第11図	図版3	縄文土器	蓋形土器	口縁部	—	—	(9.9)	明赤褐色5YR5/6	良好	石英・長石	
S11	38	第11図	図版3	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(6.4)	褐色5YR6/8	良好	石英・長石	
S11	39	第11図	図版3	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(5.4)	褐色7.5YR4/4	良好	石英・長石	
S11	40	第11図	図版3	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(3.0)	明赤褐色5YR5/8	良好	石英・長石	
S11	41	第11図	図版3	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(5.8)	褐色7.5YR4/4	良好	石英・長石	
S11	42	第11図	図版3	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(3.2)	明赤褐色5YR5/6	良好	石英・長石	
S11	43	第11図	図版3	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(4.7)	褐色7.5YR6/6	良好	石英・長石・黒雲母	
S11	44	第11図	図版3	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(4.8)	灰褐色7.5YR4/2	良好	石英・長石・赤色粒	
S11	45	第11図	図版3	縄文土器	注口土器	突起部	—	—	(11.6)	明褐色7.5YR5/6	良好	石英・長石	
S11	46	第11図	図版3	縄文土器	鉢形土器	胴部	—	—	(4.8)	明赤褐色5YR5/6	良好	石英・長石	
S11	47	第11図	図版3	縄文土器	蓋形土器	口縁部	—	—	(6.6)	に3.5V褐色7.5YR6/4	良好	石英・長石	
S11	48	第11図	図版3	縄文土器	蓋形土器	口縁部	—	—	(5.0)	明赤褐色5YR5/6	良好	石英・長石	
S11	49	第11図	図版3	縄文土器	蓋形土器	把手部	—	—	(10.1)	褐色5YR6/6	良好	石英・長石	
S11	50	第12図	図版3	縄文土器	ミニチュア土器	口縁～底部1/2	5.0	5.0	5.6	赤褐色5YR4/6	良好	石英・長石	
S11	51	第12図	図版3	縄文土器	ミニチュア土器	口縁部	5.6	3.4	6.1	赤褐色5YR4/6	良好	石英・長石	
S11	52	第12図	図版3	縄文土器	深鉢形土器	底部	—	7.6	(3.3)	明褐色7.5YR5/6	良好	石英・長石	
S11	53	第12図	図版3	縄文土器	深鉢形土器	底部	—	8.0	(3.5)	赤褐色5YR4/6	良好	石英・長石	
S11	54	第12図	図版3	縄文土器	器台	底部	—	6.2	(3.6)	赤褐色5YR4/6	良好	石英・長石	
S11	55	第12図	図版3	縄文土器	器台	底部	—	4.0	(3.8)	赤褐色5YR4/6	良好	石英・長石	
S11	56	第12図	図版3	縄文土器	深鉢形土器	底部	—	7.8	(8.3)	明赤褐色5YR5/8	良好	石英・長石	
S11	57	第12図	図版3	縄文土器	蓋形土器	胴部	—	—	(4.7)	明赤褐色5YR5/6	良好	石英・長石	
S11	58	第12図	図版3	縄文土器	深鉢形土器	口縁突起部	—	—	(4.0)	黄褐色10YR7/6	良好	石英・長石	
S11	59	第12図	図版3	縄文土器	深鉢形土器	口縁突起部	—	—	(5.5)	褐色7.5YR6/6	良好	石英・長石	
S11	60	第12図	図版3	縄文土器	浅鉢形土器	口縁突起部	—	—	(6.3)	明褐色7.5YR5/6	良好	石英・長石	
S11	61	第12図	図版3	縄文土器	浅鉢形土器	口縁突起部	—	—	(4.4)	明褐色7.5YR5/6	良好	石英・長石	
S11	62	第12図	図版3	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(3.8)	に3.5V黄褐色10YR5/4	良好	石英・長石	
SK1	1	第12図	図版3	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(4.6)	赤褐色5YR4/6	良好	石英・長石	
SK1	2	第12図	図版3	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(10.2)	明赤褐色5YR3/6	良好	石英・長石	
SK1	3	第12図	図版3	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(4.2)	明褐色7.5YR5/6	良好	石英・長石	
SK1	4	第12図	図版3	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(4.7)	赤褐色5YR4/6	良好	石英・長石	
SK1	5	第12図	図版3	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(4.9)	に3.5V褐色5YR3/6	良好	石英・長石	
SK1	6	第12図	図版3	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(3.8)	褐色7.5YR4/4	良好	石英・長石	
SK1	7	第12図	図版3	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(5.7)	明褐色7.5YR5/6	良好	石英・長石	
SK1	8	第12図	図版3	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(6.1)	赤褐色5YR4/6	良好	石英・長石	
SK1	9	第12図	図版3	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(8.1)	赤褐色5YR4/6	良好	石英・長石	
SK1	10	第12図	図版3	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(6.6)	明褐色7.5YR5/6	良好	石英・長石	
SK1	11	第12図	図版3	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(10.0)	赤褐色5YR4/8	良好	石英・長石	
SK1	12	第12図	図版3	縄文土器	深鉢形土器	把手部	—	—	(9.0)	明赤褐色5YR4/6	良好	石英・長石	
SK1	13	第12図	図版3	縄文土器	深鉢形土器	底部	—	—	(6.0)	赤褐色5YR4/6	良好	石英・長石	
SK1	14	第12図	図版3	縄文土器	土俵	胴～胴底(一部欠損)	(7.2)	(7.3)	(6.3)	に3.5V褐色5YR4/4	良好	石英・長石	
SK2	1	第12図	図版3	縄文土器	深鉢形土器	胴～胴部	—	—	(11.7)	明褐色7.5YR5/6	良好	石英・長石	有機物
SK5	1	第12図	図版3	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(8.8)	明褐色7.5YR5/6	良好	石英・長石	
S12	1	第13図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(3.4)	褐色7.5YR4/6	良好	石英・長石	
S12	2	第13図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(5.1)	明赤褐色5YR5/6	良好	石英・長石	
S12	3	第13図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	把手部	—	—	(3.2)	明赤褐色5YR5/6	良好	石英・長石	
S12	4	第13図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(6.2)	明赤褐色5YR5/6	良好	石英・長石	
S12	5	第13図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(13.2)	明赤褐色5YR5/6	良好	石英・長石	
S12	6	第13図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(4.9)	明赤褐色5YR5/6	良好	石英・長石	
S12	7	第13図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(4.6)	明赤褐色5YR4/6	良好	石英・長石	
S12	8	第13図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(4.4)	明赤褐色5YR5/6	良好	石英・長石	
S12	9	第13図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(4.7)	赤褐色5YR4/6	良好	石英・長石	
S12	10	第13図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(4.2)	赤褐色5YR4/6	良好	石英・長石	
S12	11	第13図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(5.3)	褐色7.5YR4/4	良好	石英・長石	
S12	12	第13図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(5.4)	赤褐色5YR4/6	良好	石英・長石	
S12	13	第13図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(6.3)	明赤褐色5YR5/6	良好	石英・長石	
S12	14	第13図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(4.5)	明赤褐色5YR5/6	良好	石英・長石	
S12	15	第13図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(5.4)	赤褐色2.5YR4/6	良好	石英・長石	
S12	16	第13図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(5.7)	明赤褐色5YR5/6	良好	石英・長石	
S12	17	第13図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(4.7)	明赤褐色5YR5/6	良好	石英・長石	
S12	18	第13図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(4.2)	赤褐色5YR4/6	良好	石英・長石	
S12	19	第13図	図版4	縄文土器	蓋形土器	胴部	—	—	(4.7)	赤褐色5YR5/6	良好	石英・長石	
S12	20	第13図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(6.5)	褐色7.5YR4/4	良好	石英・長石	
S12	21	第13図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(5.3)	赤褐色2.5YR4/6	良好	石英・長石・黒雲母	
S12	22	第13図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(9.0)	に3.5V褐色7.5YR5/4	良好	石英・長石	
S12	23	第13図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(5.0)	赤褐色5YR4/6	良好	石英・長石	
S12	24	第13図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(5.9)	赤褐色5YR4/6	良好	石英・長石	
S12	25	第13図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(3.7)	に3.5V褐色7.5YR5/4	良好	石英・長石	
S12	26	第13図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(3.3)	暗赤褐色5YR3			

遺構名	遺物番号	図番号	写真番号	種別	器種	部位	口径/長	底径/幅	器高/厚	色調	焼成	胎土	備考
S12	63	第14図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(3.0)	赤褐色5YR4/6	良好	石英・長石	
S12	64	第14図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(4.8)	赤褐色5YR4/6	良好	石英・長石	
S12	65	第14図	図版4	縄文土器	浅鉢形土器	口縁1/3～底部	10.6	7.6	7.2	赤褐色5YR4/6	良好	石英・長石	
S12	66	第14図	図版4	縄文土器	浅鉢形土器	口縁部	—	—	(4.2)	明赤褐色5YR5/6	良好	石英・長石	
S12	67	第14図	図版4	縄文土器	注口土器	口縁部	—	—	(4.5)	赤褐色5YR4/6	良好	石英・長石	
S12	68	第14図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(4.0)	赤褐色5YR4/6	良好	石英・長石	
S12	69	第14図	図版4	縄文土器	注口土器	注口部	—	—	(6.7)	明赤褐色5YR5/6	良好	石英・長石・黒雲母	
S12	70	第14図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(2.3)	赤褐色5YR4/6	良好	石英・長石	
S12	71	第14図	図版4	土製品	土製内盤	—	—	—	(3.7)	赤褐色5YR4/6	良好	石英・長石	
S12	72	第14図	図版4	縄文土器	深鉢形土器	底部	—	—	(2.9)	明褐色7.5YR5/6	良好	石英・長石	
S12	73	第14図	図版4	縄文土器	盥形土器	つまみ部	—	—	(1.9)	明赤褐色5YR5/6	良好	石英・長石	
S12	74	第14図	図版4	縄文土器	浅鉢形土器	口縁部	—	—	(3.4)	明赤褐色5YR5/6	良好	石英・長石	
S13	1	第15図	図版5	縄文土器	深鉢形土器	口縁部付近	—	—	(7.5)	明赤褐色5YR5/6	良好	石英・長石・黒雲母・赤色粒	水埋土器
S13	2	第15図	図版5	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(4.3)	褐色7.5YR4/4	良好	長石・黒雲母・金雲母・赤色粒	
S13	3	第15図	図版5	縄文土器	深鉢形土器	頸部	—	—	(3.2)	赤褐色5YR4/6	良好	石英・長石	
S13	4	第15図	図版5	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(5.9)	明赤褐色5YR3/6	良好	石英・長石	
S13	5	第15図	図版5	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(4.1)	赤褐色5YR4/6	良好	石英・長石	
S13	6	第15図	図版5	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(5.3)	赤褐色5YR4/6	良好	石英・長石	
S13	7	第15図	図版5	縄文土器	深鉢形土器	頸～胴部	—	—	(5.3)	赤褐色5YR4/6	良好	石英・長石	
S13	8	第15図	図版5	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(9.0)	LS34・褐色7.5YR5/4	良好	石英・長石	
S13	9	第15図	図版5	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(6.6)	明褐色7.5YR5/6	良好	石英・長石・黒雲母	
S13	10	第15図	図版5	縄文土器	深鉢形土器	頸部	—	—	(5.0)	褐色5YR6/6	良好	石英・長石・黒雲母・赤色粒	
S13	11	第15図	図版5	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(4.6)	褐色7.5YR5/4	良好	石英・長石・黒雲母	
S13	12	第15図	図版5	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(8.8)	明赤褐色5YR5/6	良好	石英・長石・赤色粒	
S13	13	第15図	図版5	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(5.1)	赤褐色5YR4/6	良好	石英・長石	
S13	14	第15図	図版5	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(5.7)	赤褐色5YR4/6	良好	石英・長石・黒雲母	
S13	15	第15図	図版5	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(5.3)	赤褐色5YR4/6	良好	石英・長石	
S13	16	第15図	図版5	縄文土器	深鉢形土器	頸部	—	—	(5.6)	明赤褐色5YR5/8	良好	石英・長石・黒雲母・赤色粒	
S13	17	第15図	図版5	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(7.1)	赤褐色5YR4/6	良好	石英・長石	
S13	18	第15図	図版5	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(7.1)	赤褐色5YR4/6	良好	長石・黒雲母	
S13	19	第15図	図版5	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(6.2)	赤褐色5YR4/6	良好	石英・長石	
S13	20	第15図	図版5	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(5.0)	赤褐色5YR4/8	良好	石英・長石・黒雲母	
S13	21	第15図	図版5	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(4.4)	明赤褐色5YR5/6	良好	石英・長石	
S13	22	第15図	図版5	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(6.3)	赤褐色5YR5/6	良好	長石・金雲母	
S13	23	第15図	図版5	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(5.5)	赤褐色5YR4/6	良好	石英・長石	
S13	24	第15図	図版5	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(9.2)	赤褐色5YR4/6	良好	石英・長石	
S13	25	第15図	図版5	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(5.2)	明赤褐色5YR5/6	良好	石英・長石	
S13	26	第15図	図版5	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(5.6)	赤褐色5YR4/6	良好	石英・長石・黒雲母	
S13	27	第15図	図版5	縄文土器	深鉢形土器	頸部～胴部	—	—	(6.2)	明褐色7.5YR5/6	良好	石英・長石	
S13	28	第15図	図版5	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(9.5)	褐色7.5YR4/4	良好	石英・長石	
S13	29	第15図	図版5	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(6.2)	赤褐色5YR4/6	良好	石英・長石	
S13	30	第15図	図版5	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(5.1)	赤褐色5YR4/6	良好	石英・長石	
S13	31	第15図	図版5	縄文土器	深鉢形土器	頸部	—	—	(3.7)	明赤褐色5YR5/6	良好	石英・長石・黒雲母	
S13	32	第15図	図版5	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(4.2)	明赤褐色5YR5/6	良好	石英・長石・黒雲母・赤色粒	
S13	33	第15図	図版5	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(3.6)	明赤褐色5YR5/6	良好	石英・長石・黒雲母・赤色粒	
S13	34	第15図	図版5	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(6.5)	赤褐色5YR4/8	良好	石英・長石	
S13	35	第15図	図版5	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(4.8)	明赤褐色5YR5/6	良好	石英・長石	
S13	36	第15図	図版5	縄文土器	深鉢形土器	頸～胴部	—	—	(6.3)	褐色7.5YR4/6	良好	石英・長石	
S13	37	第15図	図版5	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(6.3)	明赤褐色5YR5/6	良好	石英・長石・黒雲母・赤色粒	
S13	38	第15図	図版5	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(4.7)	明赤褐色5YR5/6	良好	石英・長石	
S13	39	第15図	図版5	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(4.8)	明褐色7.5YR5/6	良好	石英・長石	
S13	40	第15図	図版5	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(7.6)	明赤褐色5YR5/6	良好	石英・長石	
S13	41	第15図	図版5	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(4.3)	褐色7.5YR4/6	良好	石英・長石・黒雲母	
S13	42	第16図	図版5	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(3.6)	褐色7.5YR5/6	良好	長石・黒雲母	
S13	43	第16図	図版5	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(3.8)	赤褐色5YR4/6	良好	長石・黒雲母・金雲母	
S13	44	第16図	図版5	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(6.1)	褐色7.5YR4/4	良好	石英・長石	
S13	45	第16図	図版5	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(5.3)	赤褐色5YR4/8	良好	石英・長石	
S13	46	第16図	図版5	縄文土器	深鉢形土器	頸～胴部	—	—	(4.0)	赤褐色5YR4/6	良好	石英・長石	
S13	47	第16図	図版5	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(6.2)	明赤褐色5YR5/6	良好	石英・長石	
S13	48	第16図	図版5	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(4.6)	褐色7.5YR4/6	良好	石英・長石	
S13	49	第16図	図版5	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(5.9)	赤褐色5YR4/6	良好	石英・長石	
S13	50	第16図	図版5	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(6.2)	褐色5YR6/6	良好	石英・長石・黒雲母・赤色粒	
S13	51	第16図	図版5	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(4.8)	暗褐色7.5YR3/4	良好	石英・長石	
S13	52	第16図	図版5	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(6.1)	赤褐色5YR4/6	良好	石英・長石	
S13	53	第16図	図版5	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(5.5)	LS34・赤褐色5YR4/4	良好	石英・長石	
S13	54	第16図	図版5	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(5.3)	褐色7.5YR4/6	良好	石英・長石・黒雲母	
S13	55	第16図	図版5	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(4.8)	褐色7.5YR4/4	良好	石英・長石	
S13	56	第16図	図版5	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(9.9)	赤褐色5YR4/8	良好	石英・長石・黒雲母	
S13	57	第16図	図版5	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(4.3)	赤褐色5YR4/6	良好	長石・金雲母	
S13	58	第16図	図版5	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(5.0)	LS34・褐色7.5YR6/4	良好	石英・長石・黒雲母・赤色粒	
S13	59	第16図	図版5	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(8.1)	褐色7.5YR4/6	良好	石英・長石	
S13	60	第16図	図版5	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(5.2)	赤褐色5YR4/6	良好	長石・黒雲母・金雲母	
S13	61	第16図	図版5	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(6.5)	明褐色7.5YR5/6	良好	石英・長石	
S13	62	第16図	図版5	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(4.7)	褐色7.5YR4/4	良好	石英・長石	
S13	63	第16図	図版5	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(7.1)	明褐色10YR6/6	良好	石英・長石	
S13	64	第16図	図版5	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(6.1)	褐色7.5YR6/6	良好	石英・長石	
S13	65	第16図	図版5	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(5.3)	褐色7.5YR4/4	良好	石英・長石	
S13	66	第16図	図版5	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(3.6)	明赤褐色5YR3/6	良好	石英・長石	
S13	67	第16図	図版5	縄文土器	深鉢形土器	把手	—	—	(11.1)	明赤褐色5YR5/6	良好	石英・長石	
S13	68	第16図	図版5	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(5.4)	赤褐色5YR4/6	良好	石英・長石・黒雲母・赤色粒	
S13	69	第16図	図版5	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(5.4)	赤褐色5YR4/6	良好	石英・長石	
S13	70	第16図	図版5	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(4.7)	明褐色5YR5/6	良好	石英・長石	
S13	71	第16図	図版5	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(2.5)	明赤褐色5YR5/6	良好	石英・長石	
S13	72	第16図	図版5	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(3.7)	赤褐色5YR4/6	良好	石英・長石・黒雲母	
S13	73	第16図	図版5	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(5.0)	褐色7.5YR4/6	良好	石英・長石	
S13	74	第16図	図版5	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(5.3)	明赤褐色5YR5/6	良好	石英・長石・黒雲母・赤色粒	
S13	75	第16図	図版5	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(3.5)	LS34・褐色5YR6/4	良好	石英・長石・黒雲母・赤色粒	
S13	76	第16図	図版5	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(5.6)	赤褐色5YR4/8	良好	石英・長石	
S13	77	第16図	図版5	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(5.9)	LS34・褐色7.5YR6/3	良好	石英・長石	
S13	78	第16図	図版5	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(3.6)	明褐色7.5YR5/6	良好	石英・長石	
S13	79	第16図	図版5	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(7.2)	LS34・赤褐色5YR4/4	良好	石英・長石	
S13	80	第16図	図版5	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(7.8)	赤褐色5YR4/6	良好	石英・長石	
S13	81	第16図	図版5	縄文土器	深鉢形土器	頸部	—	—	(6.1)	赤褐色5YR4/6	良好	長石・黒雲母・金雲母	
S13	82	第16図	図版5	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(4.6)	赤褐色5YR4/6	良好	長石・黒雲母	
S13	83	第16図	図版5	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(3.7)	明赤褐色5YR5/6	良好	石英・長石	
S13	84	第16図	図版5	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(4.5)	明赤褐色5YR5/6	良好	石英・長石	
S13	85	第16図	図版5	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(3.3)	赤褐色5YR4/6	良好	石英・長石	
S13	86	第16図	図版5	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(2.8)	赤褐色5YR4/8	良好	石英・長石	
S13	87	第16図	図版5	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(5.5)	赤褐色5YR4/6	良好	石英・長石	
S13	88	第16図	図版5	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(5.6)	明褐色5YR5/6	良好	石英・長石	
S13	89	第16図	図版5	縄文土器	浅鉢形土器	口縁部	—	—	(3.9)	褐色7.5YR4/6	良好	石英・長石	
S13	90	第16図	図版5	縄文土器	盥形土器	口縁部	—	—	(4.5)	褐色7.5YR4/6	良好	石英・長石	
S13	91	第16図	図版5	縄文土器	器台	底部	—	—	(4.7)	赤褐色5YR4/6	良好	石英・長石	
S13	92	第16図	図版5	縄									

遺構名	遺物番号	図番号	写真番号	種別	器種	部位	口径/長	底径/幅	器高/厚	色調	焼成	胎土	備考	
S4	28	第17図	図版6	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(6.4)	明褐色7.5YR5/6	良好	長石		
S4	29	第17図	図版6	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(5.4)	赤褐色5YR4/6	良好	石英・長石		
S4	30	第17図	図版6	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(5.5)	明赤褐色5YR5/6	良好	長石		
S4	31	第17図	図版6	縄文土器	深鉢形土器	把手	—	—	(3.2)	褐色7.5YR6/6	良好	石英・長石		
S4	32	第17図	図版6	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(7.4)	明赤褐色5YR5/6	良好	石英・長石		
S4	33	第17図	図版6	縄文土器	深鉢形土器	頸部	—	—	(5.0)	にぶい褐色7.5YR6/3	良好	石英・長石・雲母		
S4	34	第17図	図版6	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(11.6)	赤褐色5YR4/6	良好	長石		
S4	35	第17図	図版6	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(5.3)	暗赤褐色5YR3/6	良好	石英・長石		
S4	36	第17図	図版6	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(3.6)	赤褐色5YR4/6	良好	長石・雲母・赤色粒		
S4	37	第17図	図版6	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(6.5)	明赤褐色5YR5/6	良好	長石・雲母		
S4	38	第17図	図版6	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(4.0)	明赤褐色5YR5/6	良好	長石		
S4	39	第17図	図版6	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(3.1)	赤褐色5YR4/6	良好	石英・長石		
S4	40	第17図	図版6	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(6.8)	明赤褐色2.5YR5/6	良好	石英・長石・赤色粒		
S4	41	第17図	図版6	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(3.0)	褐色7.5YR4/3	良好	長石・赤色粒		
S4	42	第17図	図版6	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(6.2)	赤褐色5YR4/6	良好	石英・長石		
S4	43	第17図	図版6	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(5.9)	明赤褐色5YR5/6	良好	長石		
S4	44	第17図	図版6	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(4.4)	明赤褐色5YR5/6	良好	石英・長石		
S4	45	第18図	図版6	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(7.6)	明赤褐色5YR5/6	良好	石英・長石		
S4	46	第18図	図版6	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(4.0)	にぶい赤褐色5YR4/4	良好	石英・長石		
S4	47	第18図	図版6	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(2.7)	明赤褐色5YR5/8	良好	長石		
S4	48	第18図	図版6	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(4.4)	にぶい褐色7.5YR5/4	良好	長石・雲母		
S4	49	第18図	図版6	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(5.9)	明赤褐色5YR5/6	良好	長石		
S4	50	第18図	図版6	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(3.8)	にぶい赤褐色5YR5/4	良好	石英・長石		
S4	51	第18図	図版6	縄文土器	深鉢形土器	頸部	—	—	(3.1)	にぶい褐色7.5YR5/4	良好	長石		
S4	52	第18図	図版6	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(5.8)	にぶい褐色7.5YR5/4	良好	長石		
S4	53	第18図	図版6	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(6.9)	褐色7.5YR6/6	良好	石英・長石		
S4	54	第18図	図版6	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(7.8)	赤褐色5YR4/8	良好	石英・長石		
S4	55	第18図	図版6	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(4.7)	赤褐色5YR4/6	良好	石英・長石		
S4	56	第18図	図版6	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(9.2)	赤褐色2.5YR4/6	良好	石英・長石		
S4	57	第18図	図版6	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(6.2)	赤褐色5YR4/6	良好	石英・長石		
S4	58	第18図	図版6	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(7.0)	明赤褐色5YR5/8	良好	長石		
S4	59	第18図	図版6	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(4.2)	赤褐色5YR4/6	良好	長石・雲母		
S4	60	第18図	図版6	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(5.4)	赤褐色5YR4/6	良好	長石		
S4	61	第18図	図版6	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(4.9)	明赤褐色5YR5/6	良好	長石		
S4	62	第18図	図版6	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(11.5)	にぶい赤褐色2.5YR4/4	良好	石英・長石		
S4	63	第18図	図版6	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(6.7)	赤褐色5YR4/6	良好	長石・雲母		
S4	64	第18図	図版6	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(5.0)	明赤褐色5YR5/6	良好	石英・長石		
S4	65	第18図	図版6	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(4.0)	赤褐色5YR4/6	良好	石英・長石・黒雲母		
S4	66	第18図	図版6	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(5.2)	赤褐色5YR4/8	良好	石英・長石		
S4	67	第18図	図版6	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(6.8)	赤褐色2.5YR4/8	良好	石英・長石		
S4	68	第18図	図版6	縄文土器	深鉢形土器	底部	—	—	(3.0)	明赤褐色5YR5/6	良好	長石		
S4	69	第18図	図版6	縄文土器	器台か	器台か	—	—	(1.6)	明褐色7.5YR5/7	良好	石英・長石		
S4	70	第18図	図版6	縄文土器	ミニチュア土器	口縁小・底部2/3	2.8	2.0	3.7	にぶい褐色7.5YR7/4	良好	石英・長石・赤色粒		
S4	71	第18図	図版6	土製品	土製円盤	—	—	—	(4.1)	赤褐色5YR4/6	良好	石英・長石・黒雲母・赤色粒		
S4	72	第18図	図版6	縄文土器	器形土器	底部	—	—	(3.8)	(2.0)	にぶい褐色10YR5/4	良好	長石	
S4	73	第18図	図版6	縄文土器	深鉢形土器	底部	—	—	7.8	(3.1)	赤褐色5YR4/6	良好	石英・長石・黒雲母・赤色粒	
S4	74	第18図	図版6	縄文土器	器台か	器台	—	—	(20.0)	(3.2)	明赤褐色5YR5/6	良好	長石・雲母	
S4	75	第18図	図版6	縄文土器	器台か	器台	—	—	(5.9)	明赤褐色5YR5/6	良好	長石・雲母		
SK7	1	第18図	図版6	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(7.0)	赤褐色5YR4/6	良好	石英・長石		
SK8	1	第18図	図版6	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(4.3)	赤褐色5YR4/6	良好	石英・長石		
SK8	2	第18図	図版6	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(4.1)	褐色7.5YR4/6	良好	石英・長石		
SK8	3	第18図	図版6	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(4.6)	赤褐色5YR4/6	良好	石英・長石		
SK8	4	第18図	図版6	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(3.3)	にぶい褐色7.5YR5/4	良好	石英・長石		
SK8	5	第18図	図版6	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(3.2)	赤褐色5YR4/6	良好	石英・長石		
SK8	6	第18図	図版6	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(7.4)	赤褐色5YR4/6	良好	石英・長石		
SK8	7	第18図	図版6	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(4.0)	明赤褐色5YR4/6	良好	石英・長石		
SK8	8	第18図	図版6	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(3.9)	明赤褐色5YR5/6	良好	石英・長石		
SK8	9	第18図	図版6	縄文土器	器台	器台	—	—	(4.9)	明赤褐色5YR3/6	良好	石英・長石		
SK9	1	第18図	図版6	縄文土器	深鉢形土器	胴部	—	—	(5.9)	にぶい褐色7.5YR5/4	良好	石英・長石		
SK9	2	第18図	図版6	縄文土器	深鉢形土器	口縁部	—	—	(5.5)	赤褐色5YR4/6	良好	石英・長石		
SI1	1	第19図	図版7	石器	石鏃	脚部片側欠損	2.0	(1.2)	(0.2)			黒曜石		
SI1	2	第19図	図版7	石器	石鏃	基部欠損	(2.1)	(1.4)	(0.2)			黒曜石		
SI1	3	第19図	図版7	石器	石鏃	脚部	(1.1)	(0.9)	(0.2)			黒曜石		
SI1	4	第19図	図版7	石器	石鏃	先端部・基部欠損	(1.2)	(0.9)	(0.2)			黒曜石		
SI1	5	第19図	図版7	石器	石鏃	基部欠損	(1.3)	(1.1)	(0.9)			黒曜石		
SI1	6	第19図	図版7	石器	石鏃	右側縁破損後再加工か	1.4	0.7	0.2			黒曜石	素材剥片主要剥離面残存	
SI1	7	第19図	図版7	石器	石鏃	右側縁破損	(1.2)	(1.0)	(0.2)			黒曜石		
SI1	8	第19図	図版7	石器	石鏃	左側縁破損	(1.3)	(0.8)	(0.2)			黒曜石		
SI1	9	第19図	図版7	石器	石鏃	脚部片側欠損	(2.2)	(1.7)	(0.3)			黒曜石		
SI1	10	第19図	図版7	石器	剥片	剥片	2.4	1.3	0.4			黒曜石	両端部剥離あり、機状、両種か	
SI1	11	第19図	図版7	石器	石鏃	先端部・片側脚部先端欠損	(1.6)	(1.7)	(0.5)			黒曜石		
SI1	12	第19図	図版7	石器	石鏃	脚部	(1.1)	(0.7)	(0.2)			黒曜石		
SI2	13	第19図	図版7	石器	石鏃	右側縁破損の未製品か	1.5	1.6	0.4			黒曜石	素材剥片主要剥離面残存	
SI2	14	第19図	図版7	石器	石鏃	変形	2.0	1.4	0.4			チャート		
SI2	15	第19図	図版7	石器	石鏃	未製品か	1.8	1.7	0.3			黒曜石		
SI2	16	第19図	図版7	石器	石鏃	先端部・脚部片側欠損	(1.4)	(1.5)	(0.3)			黒曜石	素材剥片打面・主要剥離面残存	
SI3	17	第19図	図版7	石器	石鏃	脚部片側欠損	1.7	(1.1)	(0.3)			黒曜石		
SI3	18	第19図	図版7	石器	石鏃	基部欠損	(1.8)	(2.4)	(0.5)			黒曜石		
SI3	19	第19図	図版7	石器	石鏃	脚部	(0.7)	(0.6)	(0.2)			黒曜石		
SI4	20	第19図	図版7	石器	石鏃	先端部欠損	(1.3)	(1.3)	(0.3)			黒曜石		
SI4	21	第19図	図版7	石器	石鏃	脚部	(1.0)	(0.8)	(0.2)			黒曜石		
SI4	22	第19図	図版7	石器	石鏃	基部欠損	(1.4)	(1.0)	(0.2)			黒曜石		
SI4	23	第19図	図版7	石器	剥片	左側縁刃潰し状に鈍角折損	4.1	(1.8)	(0.4)			黒曜石	右側縁に使用痕状微細網目並ぶ	
SI4	24	第19図	図版7	石器	石鏃	基部欠損	(1.6)	(1.1)	(0.2)			黒曜石		
SI4	25	第19図	図版7	石器	石鏃	脚部	(1.1)	(0.8)	(0.2)			黒曜石		
SI4	26	第19図	図版7	石器	石鏃	先端部・脚部片側欠損	(1.7)	(1.4)	(0.2)			黒曜石		
SK8	27	第19図	図版7	石器	石鏃	変形	1.8	1.3	0.3			黒曜石		
遺構外	28	第19図	図版7	石器	石鏃	先端部欠損	(1.4)	(1.3)	(0.4)			黒曜石	上部残りあり、基部二股、4Aグロッド出土	
遺構外	29	第19図	図版7	石器	石鏃	先端部・脚部片側欠損	(1.9)	(1.5)	(0.3)			黒曜石	4Aグロッド出土	
遺構外	30	第19図	図版7	石器	石鏃	先端部・基部欠損	(1.8)	(1.5)	(0.5)			黒曜石	2Bグロッド出土	
遺構外	31	第19図	図版7	石器	石鏃	変形	2.0	0.7	0.5			黒曜石	4Bグロッド出土	
遺構外	32	第19図	図版7	石器	石鏃	先端部・左側縁欠損	(1.4)	(1.0)	(0.2)			黒曜石	素材剥片主要剥離面残存、4Bグロッド出土	
遺構外	33	第19図	図版7	石器	石鏃	脚部	(1.3)	(1.0)	(0.2)			黒曜石	4Bグロッド出土	
遺構外	34	第19図	図版7	石器	石鏃	変形	1.9	1.4	0.3			黒曜石	5Bグロッド出土	
遺構外	35	第19図	図版7	石器	石鏃	脚部片側欠損	(1.5)	(1.4)	(0.2)			黒曜石	5Bグロッド出土	
遺構外	36	第19図	図版7	石器	石鏃	変形	1.8	1.2	0.3			黒曜石	5Bグロッド出土	
遺構外	37	第19図	図版7	石器	石鏃	変形	1.7	1.4	0.3			黒曜石	5Bグロッド出土	
遺構外	38	第19図	図版7	石器	石鏃	変形	(1.8)	(2.0)	(0.6)			黒曜石	調査区一括	
遺構外	39	第19図	図版7	石器	石鏃	先端部・右側縁欠損の未製品か	(1.4)	(1.6)	(0.3)			黒曜石	素材剥片主要剥離面残存、調査区一括	
SI1	1	第20図	図版7	石器	石核	石核	1.6	2.1	1.0			黒曜石		
SI1	2	第20図	図版7	石器	石核	石核	3.6	3.4	1.7			黒曜石		
遺構外	3	第20図	図版7	石器	石核	石核	2.5	1.6	1.5			黒曜石	調査区一括	
遺構外	4	第20図	図版7	石器	剥片	剥片	3.9	3.7	0.9			チャート	石核作業面調整剥片状、調査区一括	
SI1	5	第20図	図版7	石器	剥片	剥片	(7.1)	(4.6)	(1.5)			安山岩		
SI2	6	第20図	図版7	石器	剥片	剥片	(11.3)	(5.3)	(2.2)			安山岩		
SI2	7	第20図	図版7	石器	剥片	剥片	(6.3)	(3.0)	(2.4)			安山岩		
SI3	8	第20図	図版7	石器	磨製石斧	磨製石斧	(5.3)	3.6	(1.2)			桜紋岩		
SI3	9	第20図	図版7	石器	剥片	剥片	6.0	7.2	1.7			安山岩		
SI4	10	第20図	図版7	石器	磨製石斧	磨製石斧	(2.8)	(2						

第5章 まとめ

第1節 遺構と時期

本遺跡にて今回確認できた竪穴遺構は4基である。尾根の傾斜地に形成されていることから、畑の造成や耕作により削平箇所が多く遺構の輪郭も不明瞭であったり、完全には残っていないものもあった。遺構に伴う土器についても完形の個体はほとんど無く、また破片も複数の時期の混入が多かった。従って遺構の時期決定にあたっては、遺構内の下層から床面の土器を対象として時期的なまとまりをも考慮しながら判断した。

その結果、第4章にて述べたように曾利Ⅱ式ないしⅢ式期（3号竪穴）、曾利Ⅲ～Ⅳ式（4号竪穴）、曾利Ⅳ式期（1号竪穴）、称名寺Ⅰ式期（2号竪穴）とした。これらの位置関係については斜面の上方に3号（曾利Ⅱ～Ⅲ式期）があり、重複しながら4m程下がった場所に4号（曾利Ⅲ～Ⅳ式期）、その南5mに2号（称名寺Ⅰ式期）、さらにその西7mに1号（曾利Ⅳ式期）という配列になる。300㎡内に4基の竪穴があることから、密度的にはさほど低いとは思われず、また曾利Ⅰ式やⅤ式さらには堀之内Ⅰ式などの土器片が出土していることを加えると、それぞれの時期の遺構も周辺に存在していた可能性がある。勝坂段階の土器も少量出土しているが、やはり本遺跡の中心は曾利Ⅱ式期以降後期前葉までとみることができる。特に称名寺Ⅰ式段階の竪穴が調査されたことは意義深く、曾利終末期から継続することが考えられる。県東部地域の事例ではあるが、大月遺跡（山梨県教育委員会1997年）では張り出しをもつ該期の敷石住居が調査されており、やはり曾利Ⅴ式期から称名寺Ⅰ式期へのつながりが確認されている。土器に関しては曾利Ⅴ式・加曾利E4式・称名寺Ⅰ式の共伴関係も問われる事例であり、本遺跡でも同様な課題が提供されたといえる。甲府盆地方面では称名寺Ⅰ式、Ⅱ式期あわせて15軒が調査された茅ヶ岳山麓の北杜市須玉町上ノ原遺跡（上ノ原遺跡発掘調査団1999）の例が著名である。傾斜面の等高線に沿って列状に並ぶ傾向とともに入り口部を持った敷石住居となることが指摘されている。さらに曾利Ⅳ式期3軒、Ⅴ式期15軒、堀之内Ⅰ式期56軒、Ⅱ式期36軒が発見されていることから、中期終末から称名寺Ⅰ式期にかけて継続するとともに、さらに堀之内Ⅰ式期に最盛期を迎えるという集落の展開が把握できる。ここでは称名寺Ⅰ式期が中期と後期とをつなぐ画期ともなっているのではないかと。八ヶ岳山麓の高根町川又坂上遺跡（山梨県教育委員会他1993）では小範囲の調査ながら、称名寺ⅠおよびⅡ式の住居3軒が発掘されており、包含層からは曾利Ⅴ式や加曾利E4式土器片も出土している。ここでも張り出し部と敷石とが確認されており、立地も斜面寄りにあっている。笛吹市境川町水口遺跡（山梨県教育委員会他1994）では称名寺Ⅰ式期と堀之内Ⅰ式期が2軒ずつ発見されており、加曾利E4式土器も含まれている。称名寺Ⅰ式期の住居はプランが明瞭ではなく、敷石や張り出しは確認されていない。山梨市域では牧丘町古宿道の上遺跡（牧丘町教育委員会1981）から堀之内Ⅱ式期の敷石住居が発見されているが、曾利Ⅴ式期とされる1軒は床面直上の土器からすると称名寺Ⅰ式期の可能性はある。

以上のような称名寺Ⅰ式期の住居の性格から本遺跡においても敷石や張り出しの存在に注意しながら調査を進めたが、削平や攪乱などによりこれらの確認はできなかった。しかし立地や中期終末土器との関係性においては上記のような県内遺跡の状況と共通している。特に本遺跡の立地については、いわゆる谷底平野の始まる上部の南東斜面であるという地理的・地形的条件にあるが、これが中期後半から後期初頭にかけての集落形成にどのように関わったのか、他の地域を含めて該期の性格を考える必要がある。また、曾利Ⅴ式期の終末および加曾利E4式土器との関わり、さらには堀之内Ⅰ式期へのつながりが問題となる。このことを含め、集落立地や継続性・住居構造といった点からもこの時期を画期としてとらえていく必要がある。

さらに1号竪穴からは土偶が出土しており、その特徴は第2節で検討されているとおりである。本遺跡が土偶を伴う集落であったことも重要といえる。

なお出土土器に残る圧痕2点について、中山誠二氏に種子同定を依頼したが鍵となる部位が認められず、同定判断は出来なかった（図版2最下段）。

第2節 土偶

ここでは本遺跡から出土した土偶の特徴について本調査区の所在する山梨市の遺跡から出土した土偶との比較も加え整理し述べたい。

宮ノ前(七日子)遺跡 七日子神社の境内から七日子遺跡が確認され、その周辺に宮ノ前遺跡がある。七日子遺跡からは全身土偶が1体出土している。曾利式期のもので頭髪表現や胴部に文様があるほか、腕を横に伸ばしている。宮ノ前遺跡からは頭部・腕部・腰下が欠損した土偶1体が出土している。肩から腕が下に伸びる構造で中期前葉と思われる。

日下部遺跡 頭部のみ土偶が1体出土している。首に二本線、付け根には渦巻状の文様があり曾利式期のものと思われる。

立石遺跡 2体の土偶が出土している。1体は頭部・左腕を欠損しており、胴部から脚部にかけて文様が確認される。右腕先端に数本の沈線が確認される。もう1体は頭部のみ欠損しており、脚部が密着し足先部分に分かれる。また、2体とも腕を横に伸ばしている。

高畑遺跡 29体の土偶が出土している。新道式期から藤内・井戸尻・曾利まで含むが新道式期が20体以上と多く、大小・形態に多様性がみられる。また立体的であり渦巻文(蛇体)の頭髪表現や正中線、対称弧刻文がある。

中久堰遺跡 堀之内2式期の敷石住居から2体出土。完形ではないが腕を下げる胴長タイプであることがわかる。背面には渦巻文があり時期的な特徴を示す。

本調査区で出土した土偶の形態は顔をやや斜め前に下げて腕を斜め上に伸ばしている。現存高は約95mm、両腕があった場合の横幅は推定約140mmである。顔は頭部正面を占め、顔面表現には円形刺突や沈線が用いられている。頭部は胴部から伸びる半円形で、後頭部の隆線による頭髪表現は高畑遺跡のような立体的ではなく渦巻状の低い隆線で表現されており、隆線上部には横一本の沈線が入る。胸部は乳房の表現がなされ、その下に沈線による文様が施されている。腰部から下は欠損している。背部には肩部から腰部に掛けて沈線によってタスキ状の文様が施されている。以上、顔面の円形刺突や沈線の状況は後期初頭の土器や土偶の文様に類似する。しかし、左腕は先端を除いて欠損するものの右腕が上方を向くことは曾利土偶と共通しており、腕を下げる後期中久堰例とは異なっている。顔面も後期土偶のように前方に突き出してはいない。また、周辺には称名寺式土器片がみられるものの、この土偶が出土したSK1内では曾利IV式からV式の土器片が多い。これらのことから、後期的な文様ではあるが曾利式期終末の土偶としておきたい。しかし曾利土偶特有の背面文等は持たない。また、今回紹介した山梨市内の土偶との比較からは、腕の沈線については立石例に類似する部分もあるが、七日子遺跡や日下部遺跡などの曾利期土偶とは顔面や施文に違いがみられ時期差が考えられる。今後類例の検討を行なう必要がある。

引用文献

上ノ原遺跡発掘調査団 1999 『上ノ原遺跡』

『土偶とその情報』研究会 1996 『中部高地をとりまく中期の土偶』

牧丘町教育委員会 1981 『古宿道の上遺跡』

(財)山梨文化財研究所 2005 『高畑遺跡』山梨市文化財調査報告書第8集

(財)山梨文化財研究所 2008 『中久堰遺跡』山梨市文化財調査報告書第11集

山梨県教育委員会他 1993 『川又坂上遺跡』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第75集

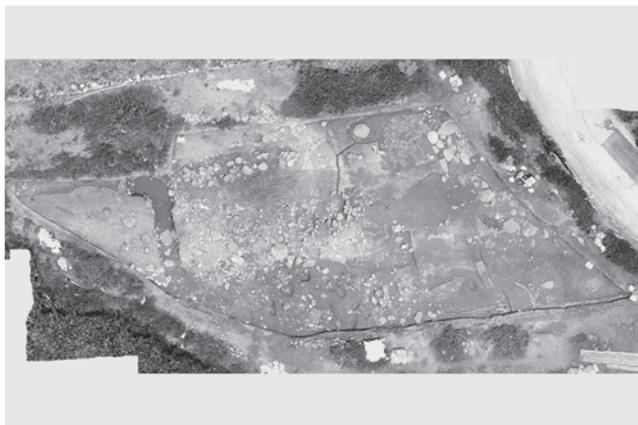
山梨県教育委員会他 1994 『水口遺跡』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第91集

山梨県教育委員会 1997 『大月遺跡』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第139集

山梨市教育委員会 1995 『宮ノ前遺跡』山梨市文化財調査報告書第3集



遺跡遠景 完掘状況 西から



遺跡近景 完掘状況 真上から(上が北)



1号竪穴 完掘状況 南から



1号竪穴 遺物出土状況 南から



2号竪穴 完掘状況 北から



2号竪穴 遺物出土状況 西から



3号竪穴 完掘状況 南から



3号竪穴 遺物出土状況 西から

図版 2



4号竪穴 完掘状況 南から



4号竪穴 遺物出土状況 南から



1号土坑 完掘状況 東から



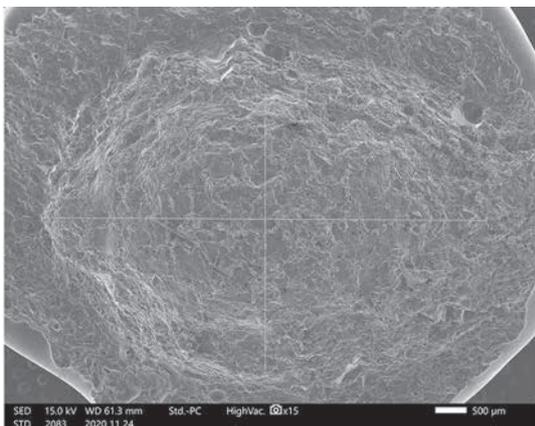
1号土坑 遺物出土状況 西から



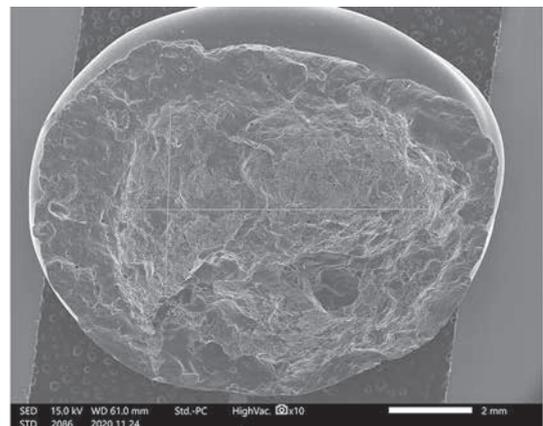
1号土坑 完掘状況 東から



1号土坑 遺物出土状況 東から

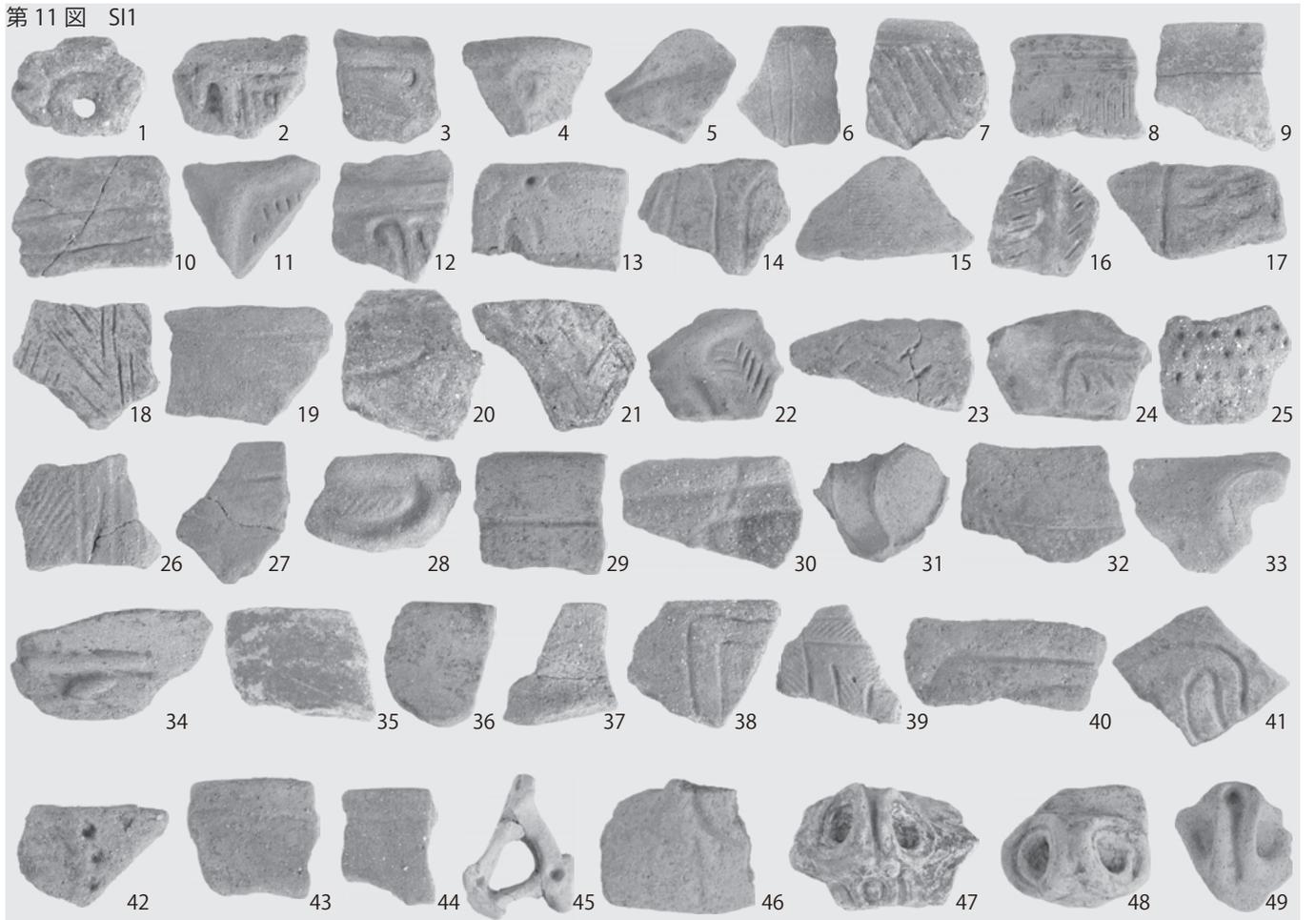


1号竪穴 SI1-57 (第12図) 土器に残る圧痕

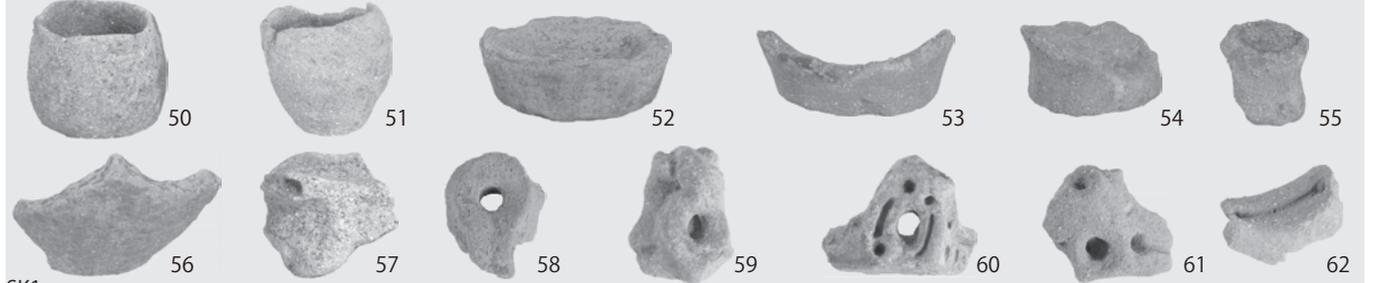


3号竪穴 SI3-93 (第16図) 土器に残る圧痕

第11图 SI1



第12图 SI1



SK1



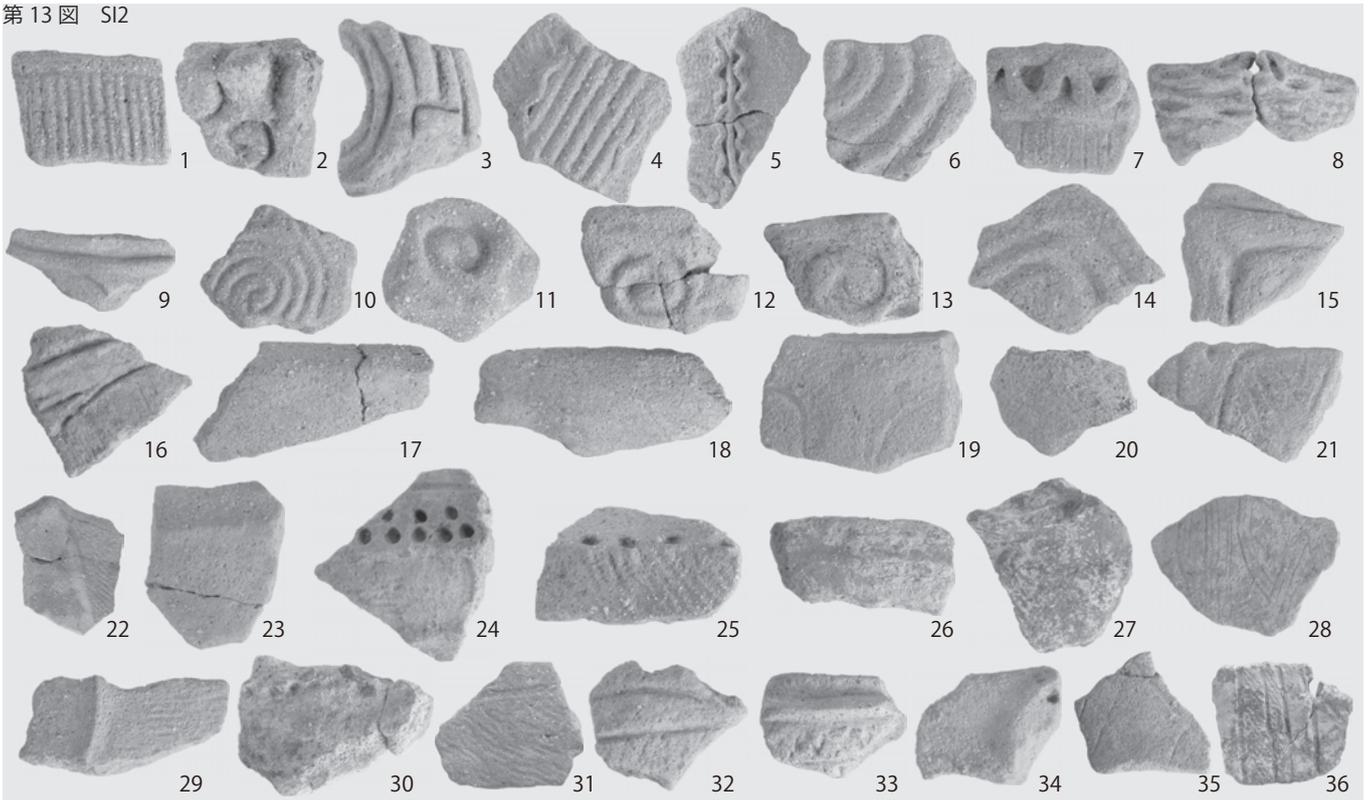
SK2



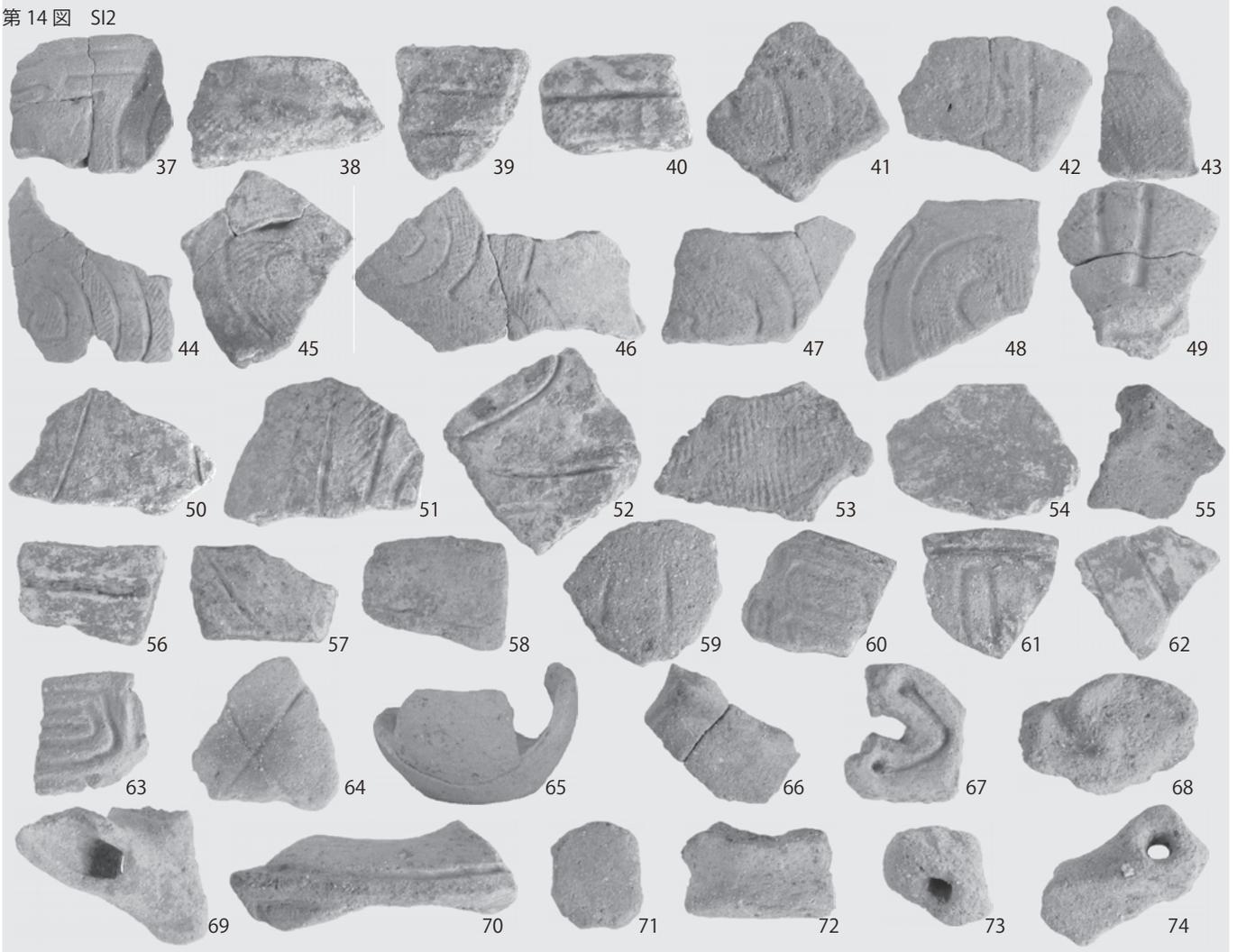
SK5

图版 4

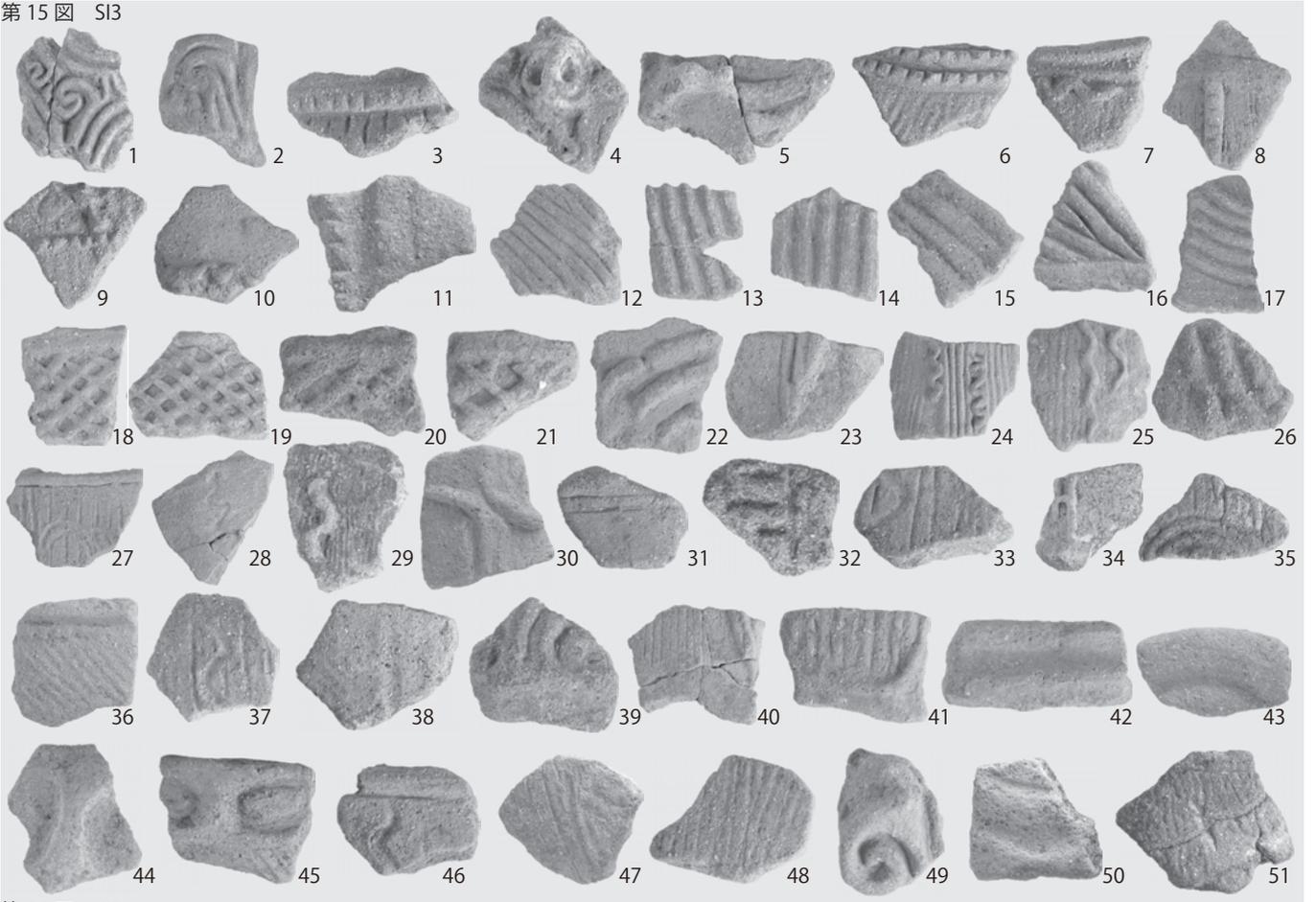
第 13 图 SI2



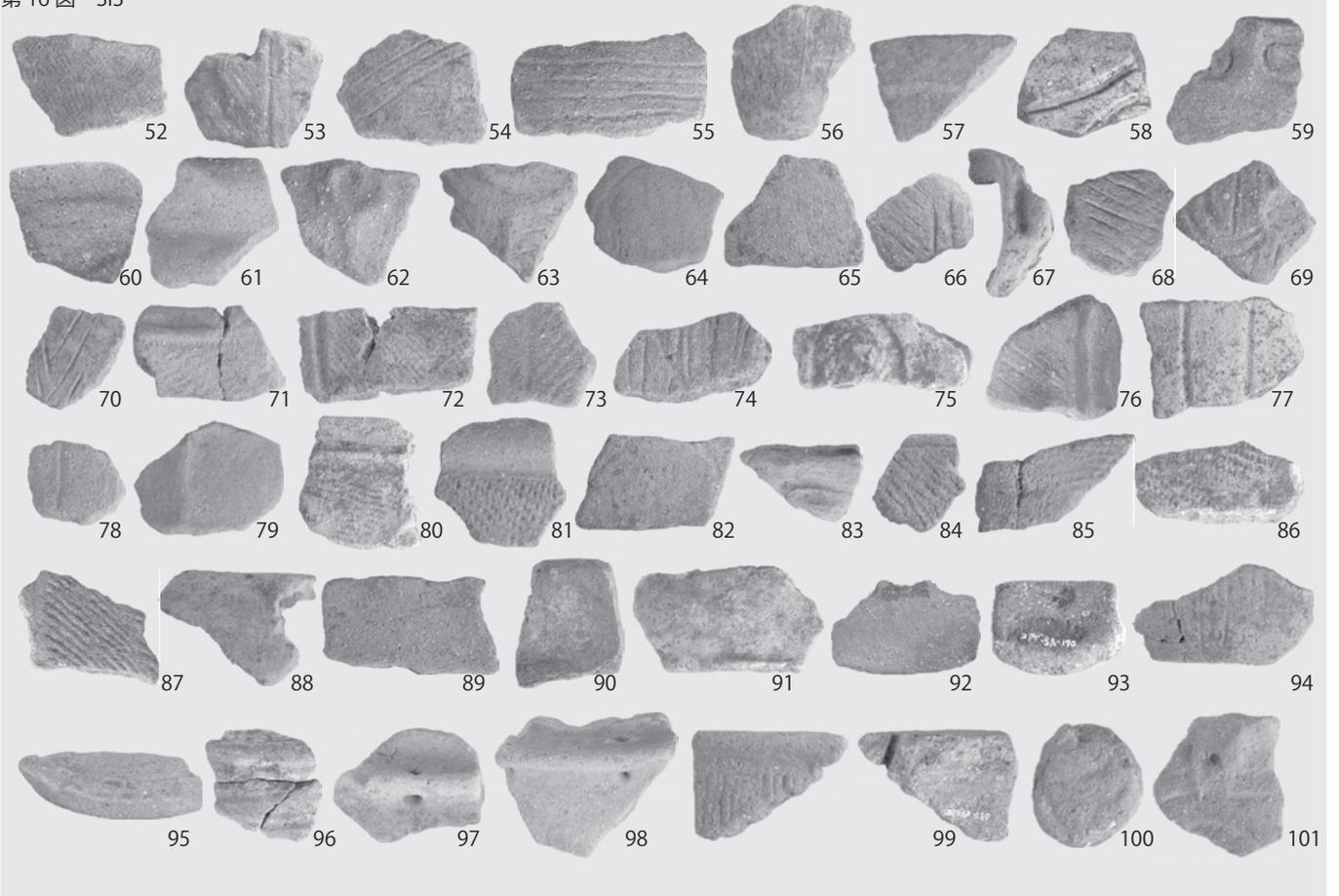
第 14 图 SI2



第 15 图 S13

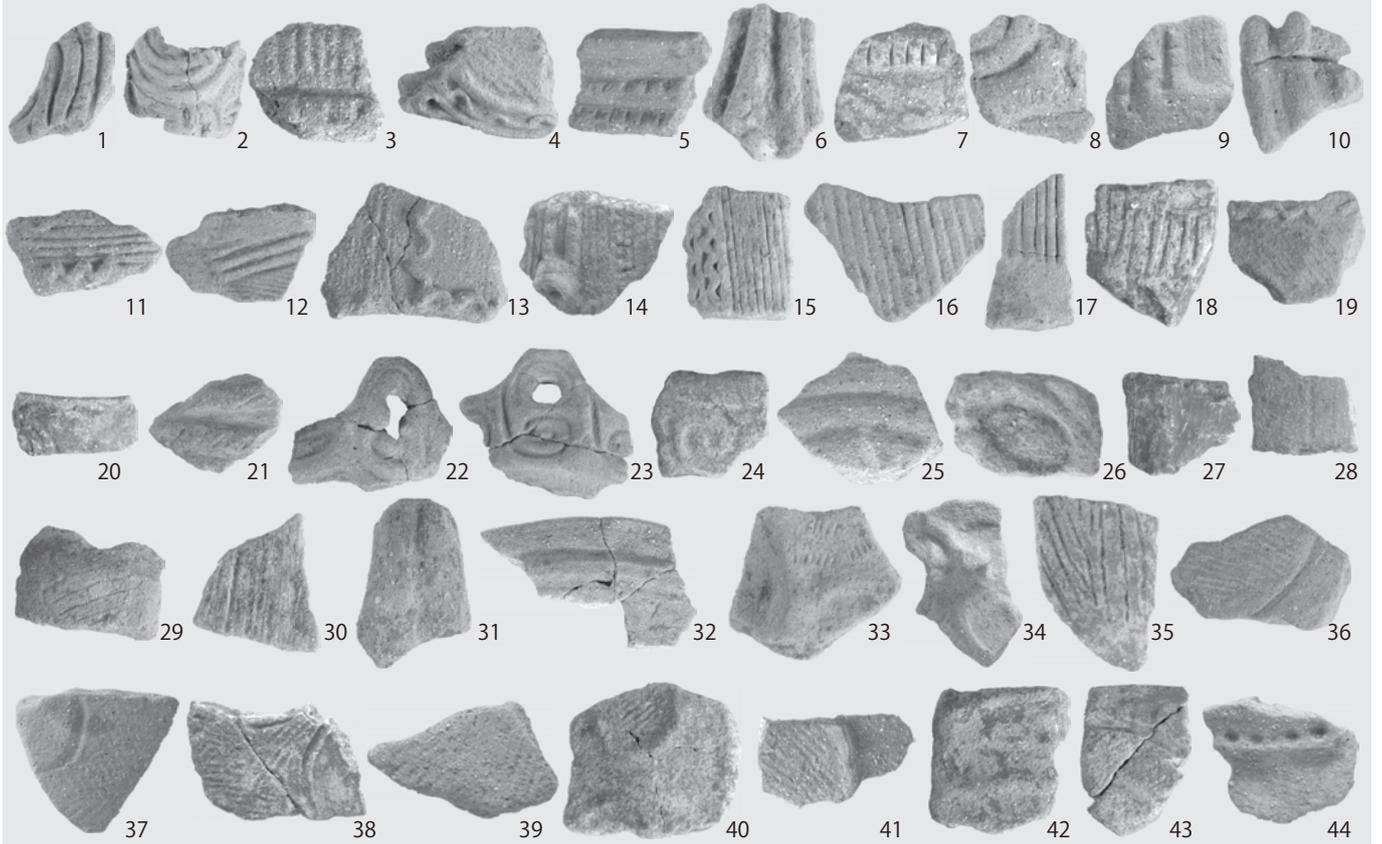


第 16 图 S13

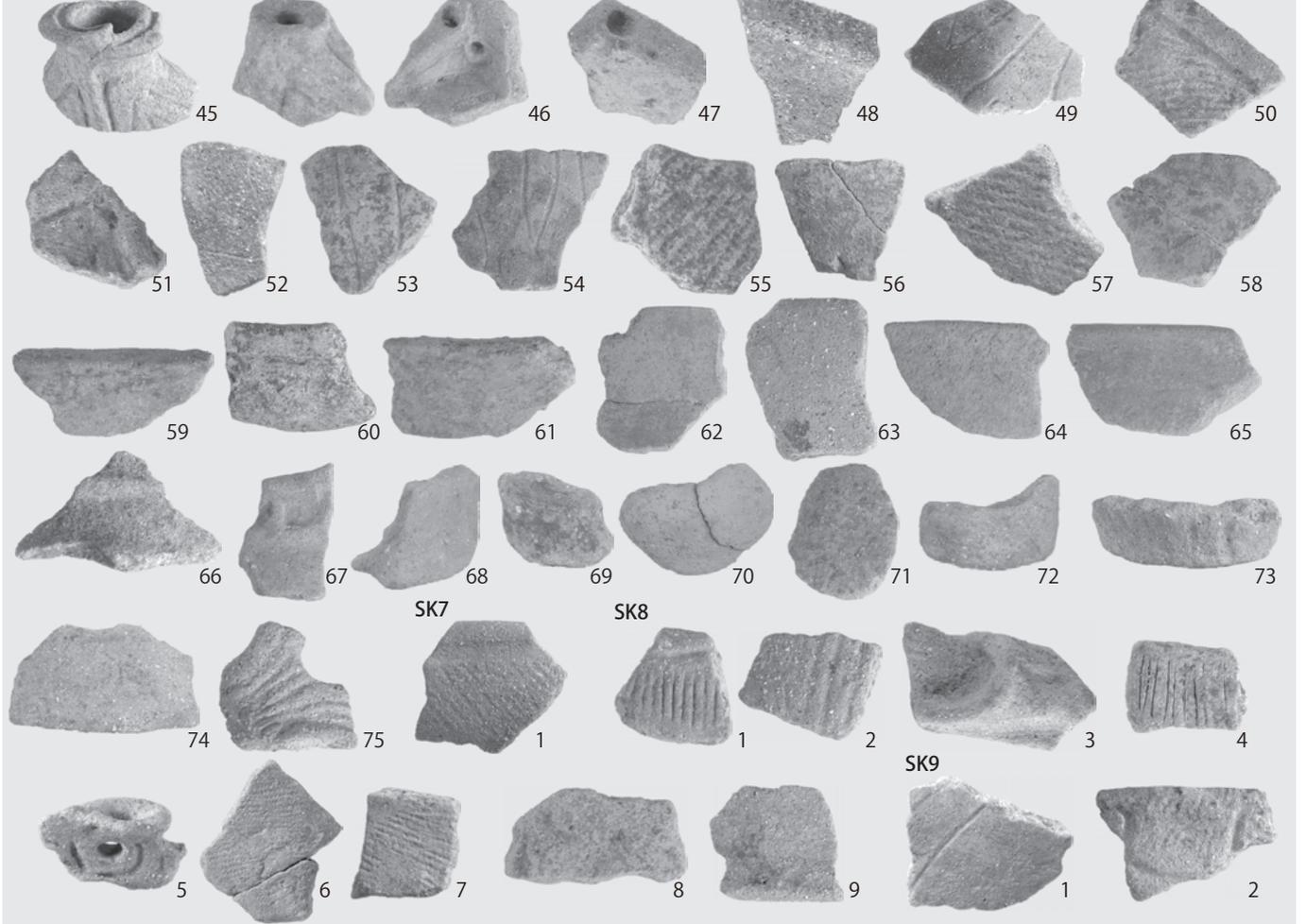


图版 6

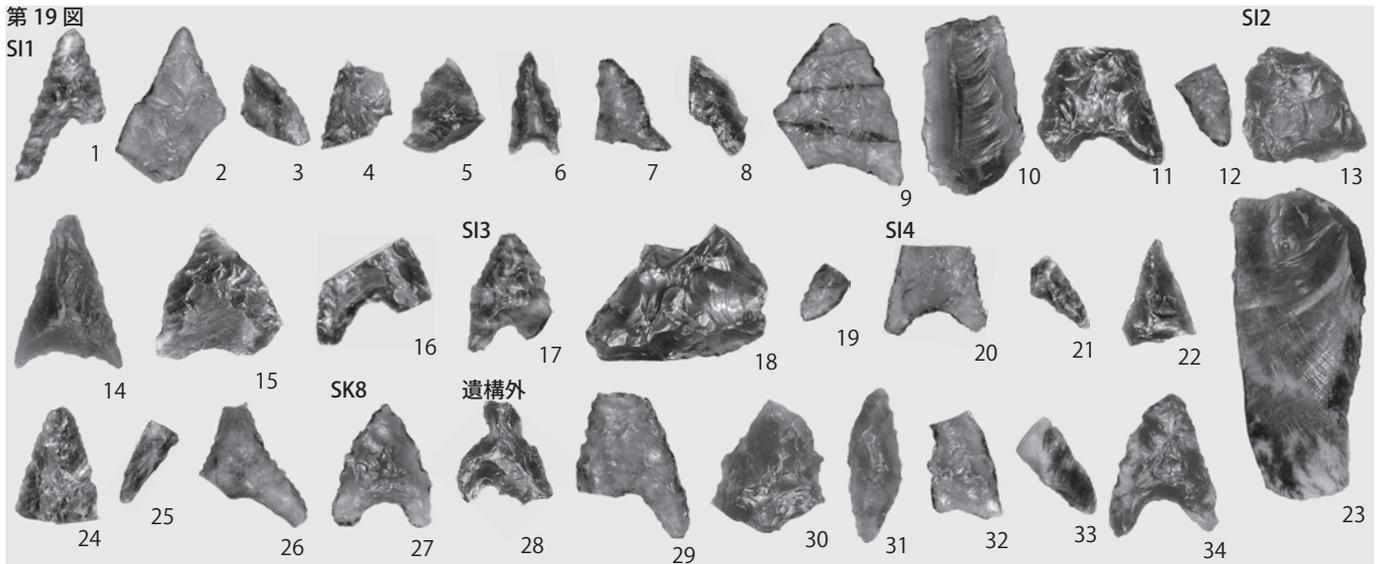
第 17 图 SI4



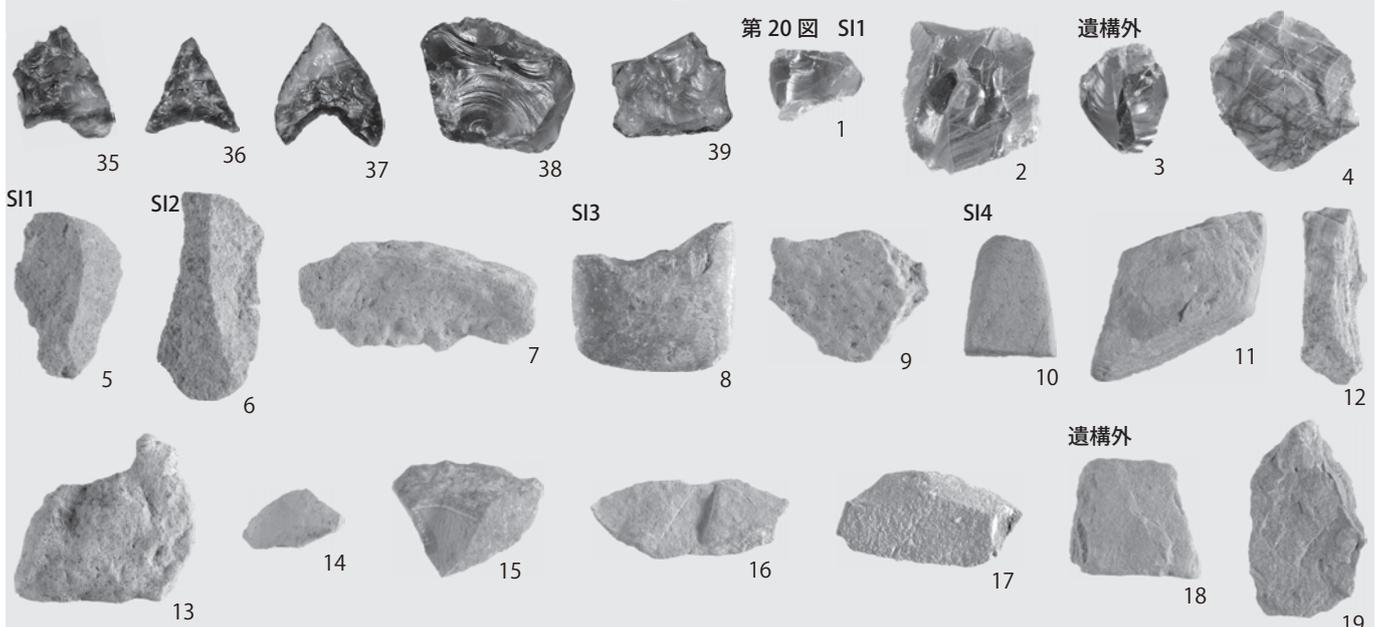
第 18 图 SI4



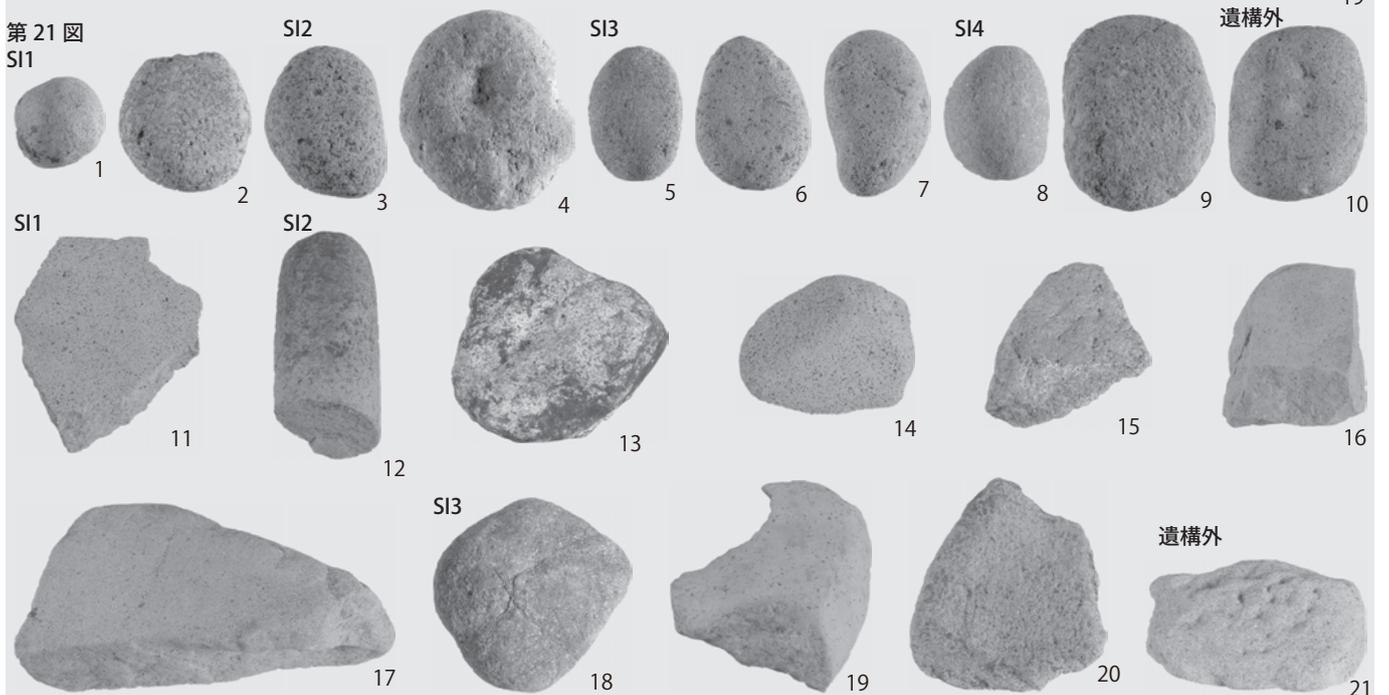
第 19 図
SI1



第 20 図 SI1



第 21 図
SI1



報告書抄録

ふりがな	こあげいせき							
書名	小揚遺跡							
副書名	主要地方道甲府山梨線バイパス工事に伴う発掘調査報告書							
編著者名	駒田真人（山梨市教育委員会） / 高野高潔・藤巻浩太郎（昭和測量株式会社）							
編集機関	山梨市教育委員会 / 昭和測量株式会社							
所在地	〒405-8501 山梨県山梨市小原西 843 TEL0553-22-1111 〒400-0032 山梨県甲府市中央 3-11-27 TEL055-235-4448							
発行年月日	西暦 2021(令和3)年 3月 10日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
こあげいせき 小揚遺跡	やまなしけん 山梨県 やまなしほりのうち 山梨市堀内 783外	19205	05006	35°42'52"	138°39'55"	20200511 ～ 20200727	300	道路建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
小揚遺跡	散布地	縄文、平安	竪穴、土坑	縄文土器、石器、 土師器、須恵器、灰釉陶器				

山梨市文化財調査報告書 第40集

小揚遺跡

—主要地方道甲府山梨線バイパス工事に伴う発掘調査報告書—

発行日 令和3年3月10日

編集 山梨市教育委員会

〒405-8501 山梨県山梨市小原西 843 TEL0553-22-1111

昭和測量株式会社

〒400-0032 山梨県甲府市中央 3-11-27 TEL055-235-4448

発行 山梨県峡東建設事務所 山梨市教育委員会 昭和測量株式会社

印刷・製本 昭和堂

〒404-0013 山梨県山梨市牧丘町窪平 62 TEL0553-35-3833